

寝取られた彼氏



男前でイケメンな女に



やっやばい…。  
教科書忘れた。

でも…隣…

女子だ…。どうしよう。



島田ハヤト



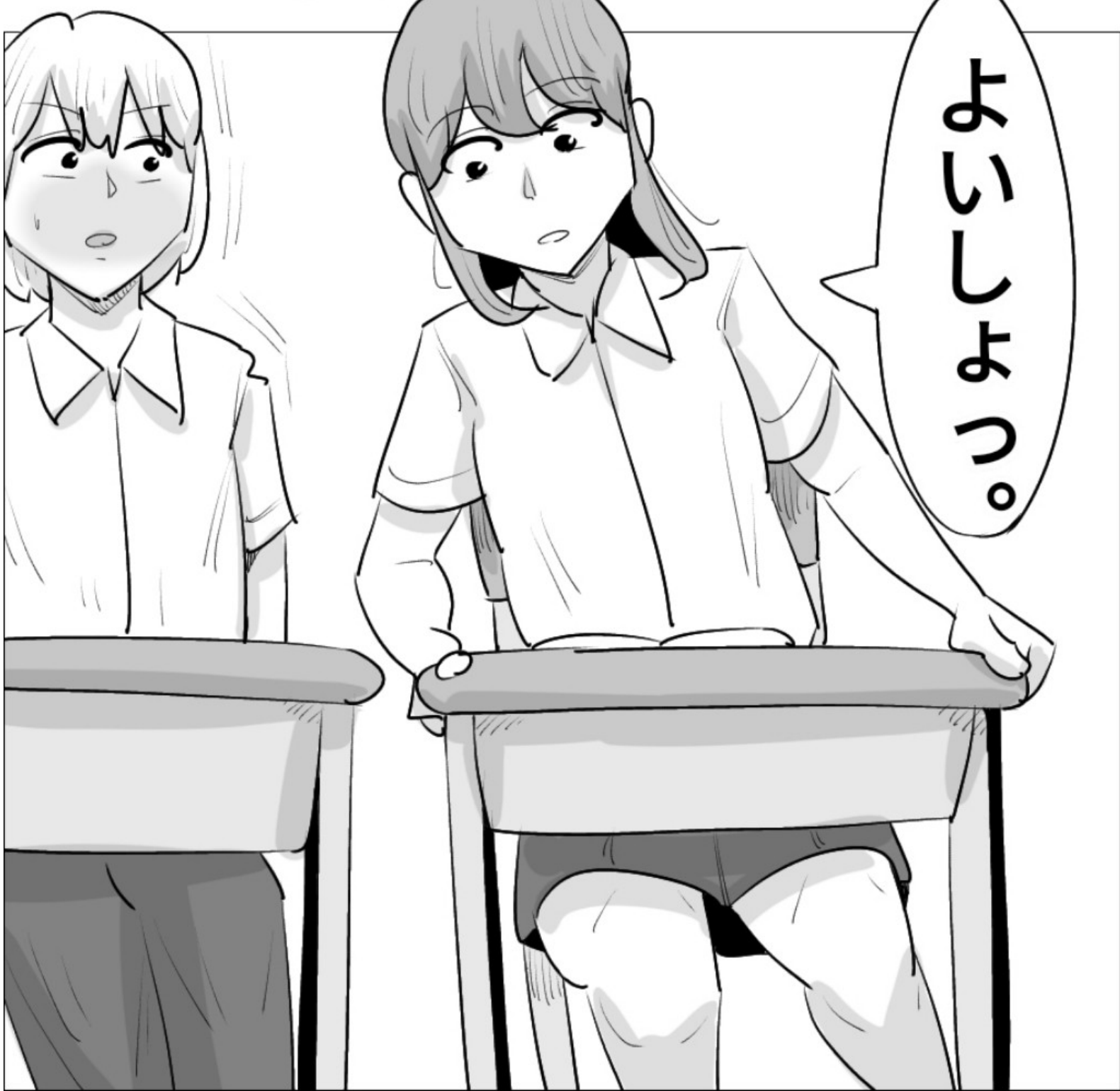
緑山ミカン

あれ？もしかして、  
教科書忘れたの？

あっ、えっと…。  
あ、あ、うん…。

なんだ、  
言ってくれば  
よかったのに。

よろよろい。



これが、僕と彼女との  
初めての出会いだった。

ち、近い…。





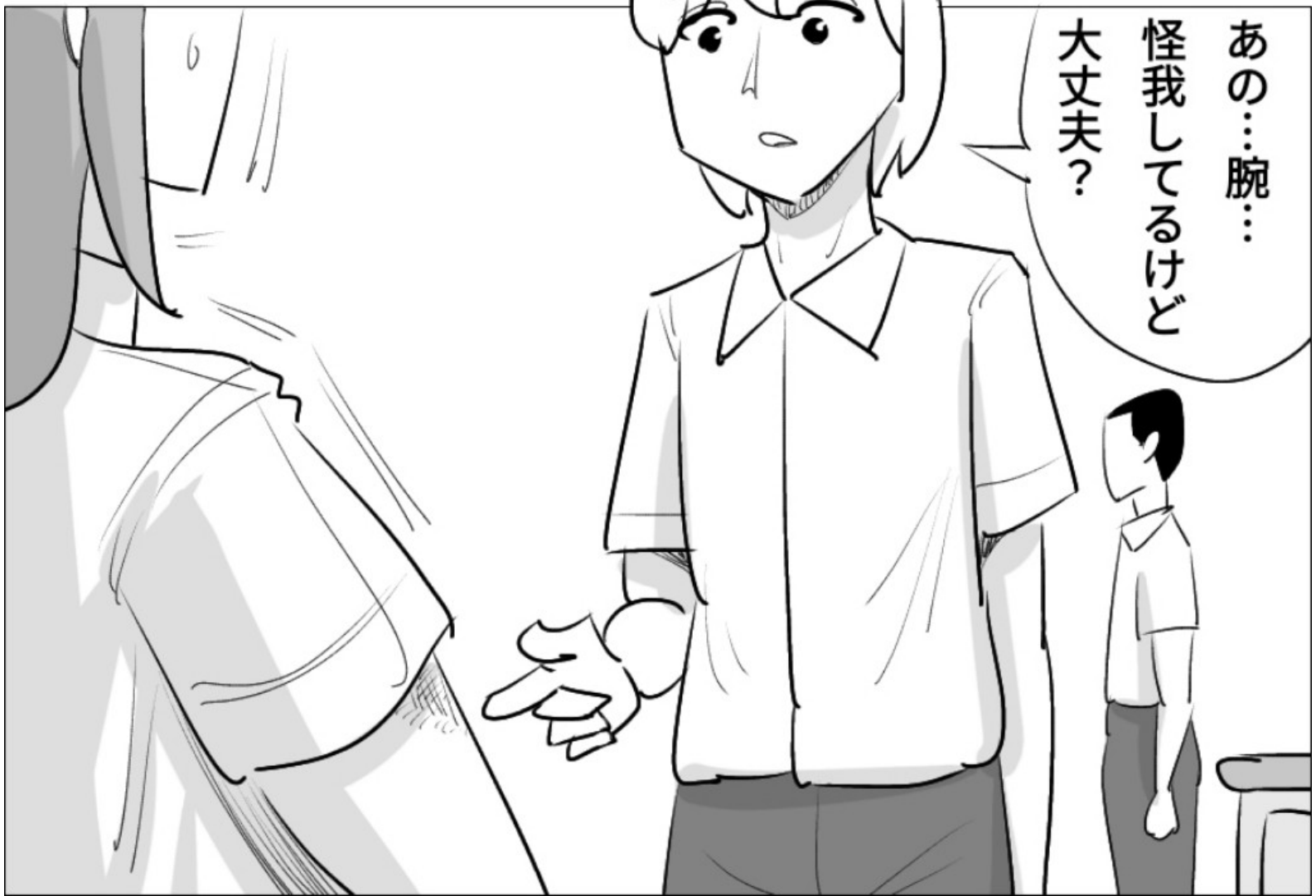
ううん。

困ったときは

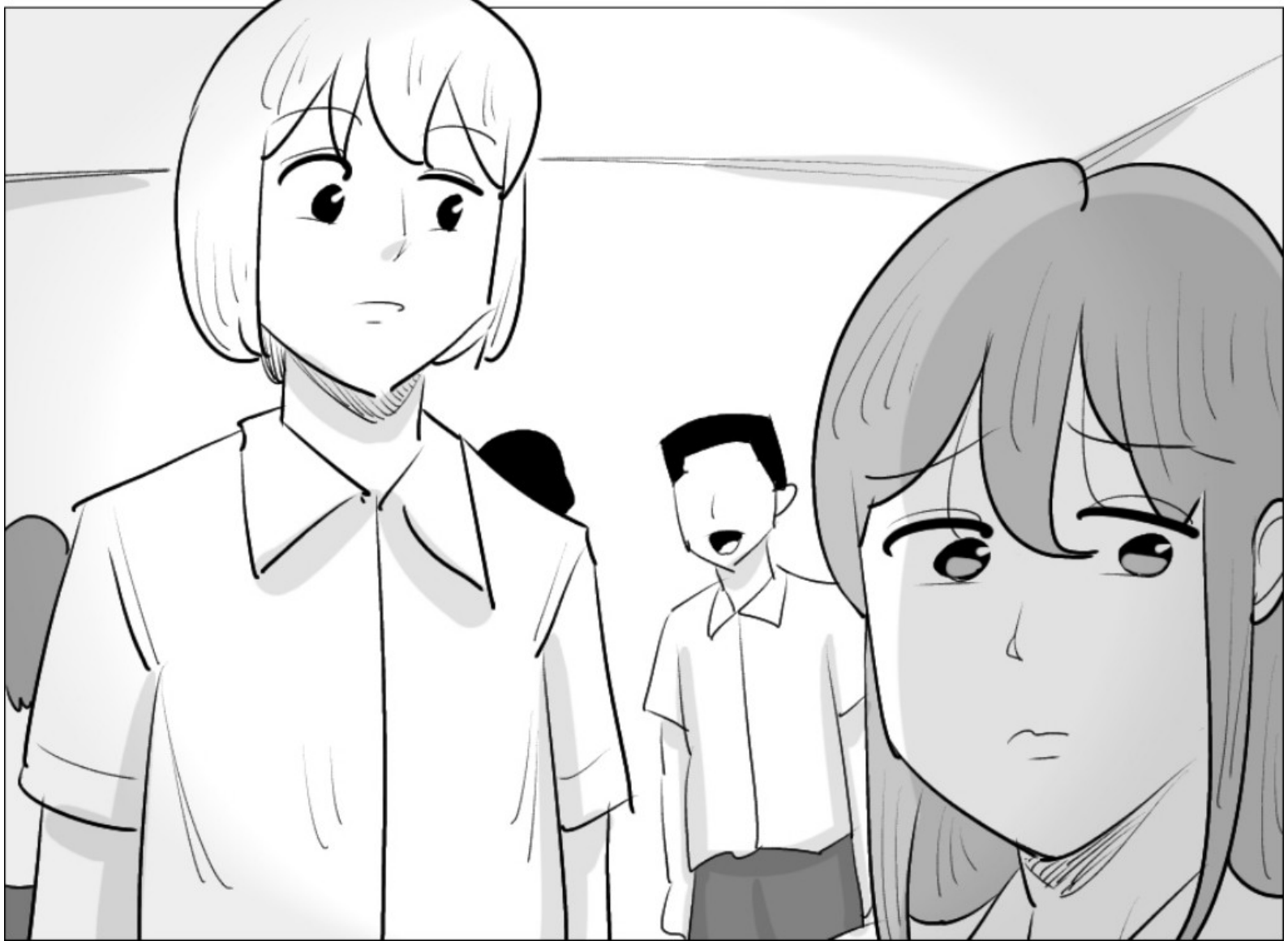
お互い様だしね？。



ありがとう…。  
緑山さん。



あの…腕…  
怪我してるけど  
大丈夫？



それからしばらく

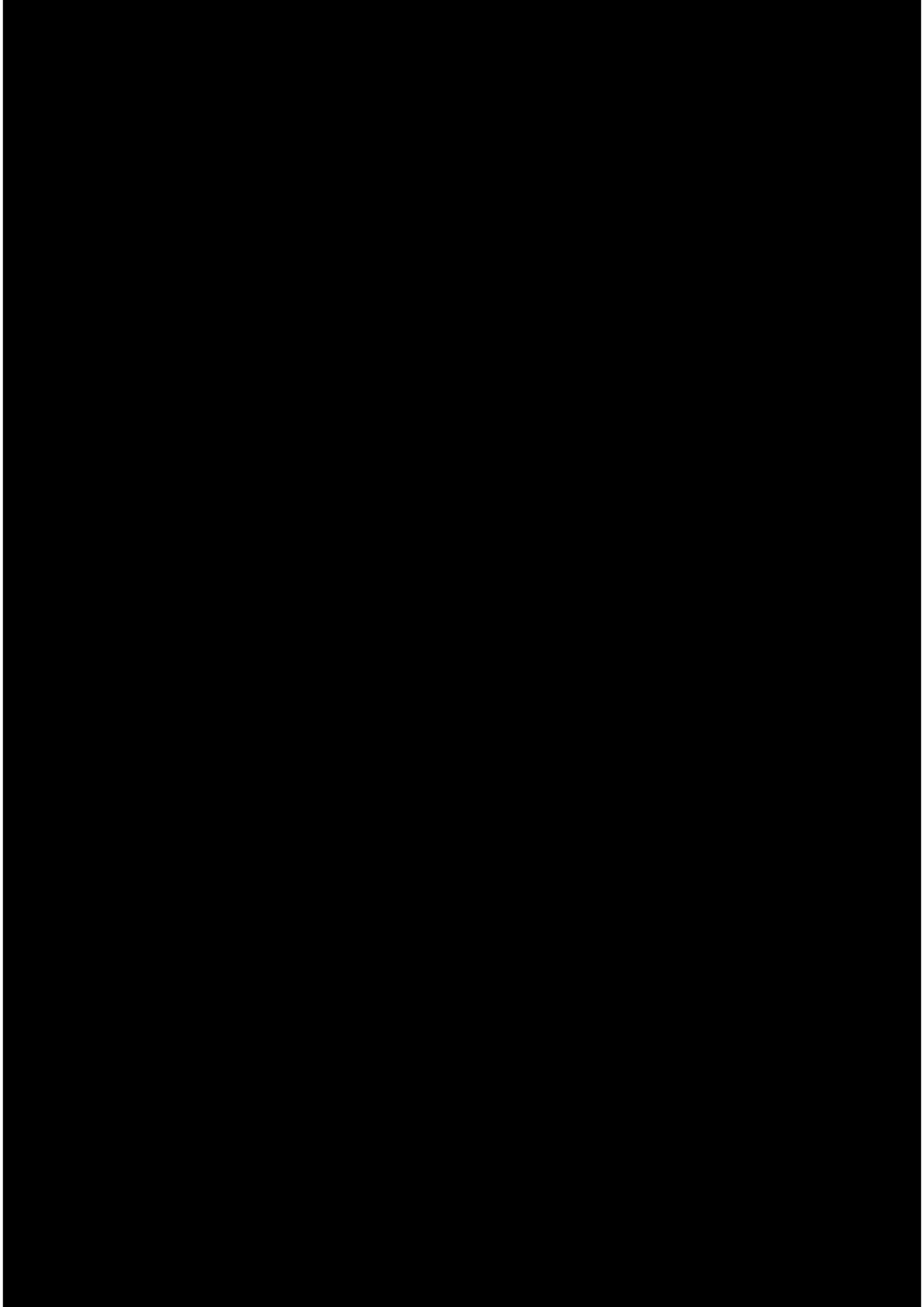
緑山さんは

学校へ来なくなつた。

先生は

家庭の事情と言っていた。



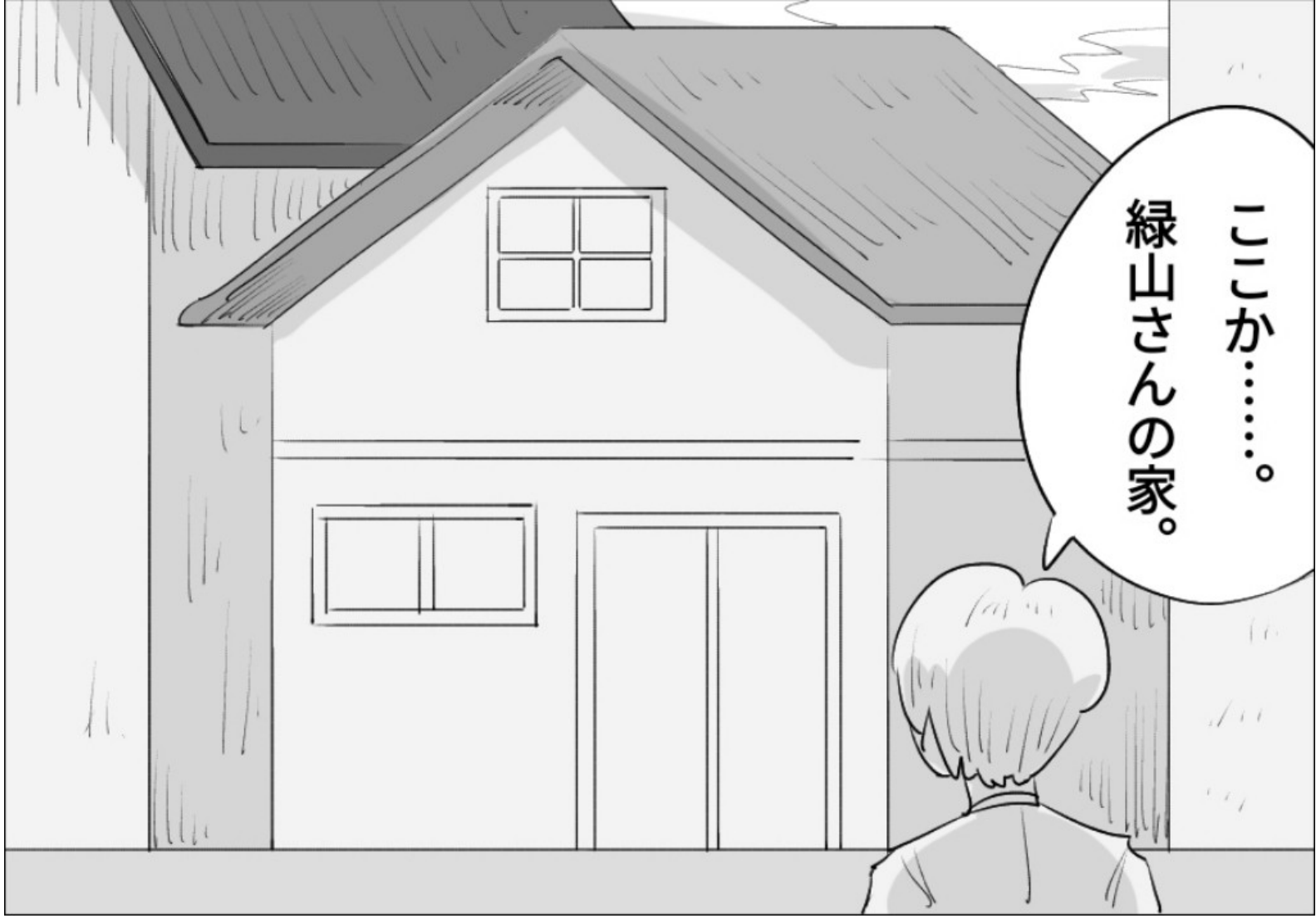




緑山さん

なんで、休んでるんだらう。

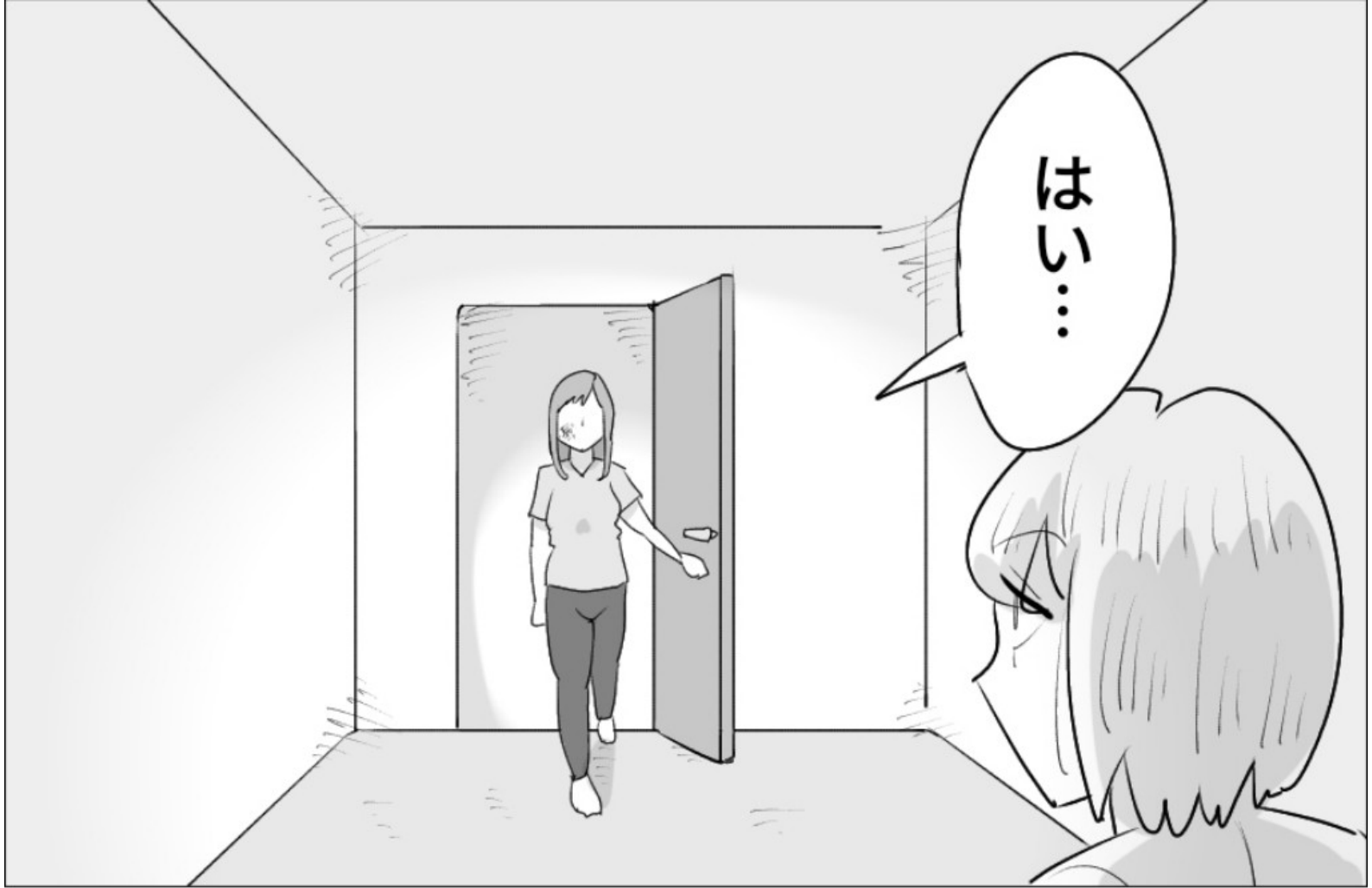




ここか……。  
緑山さんの家。

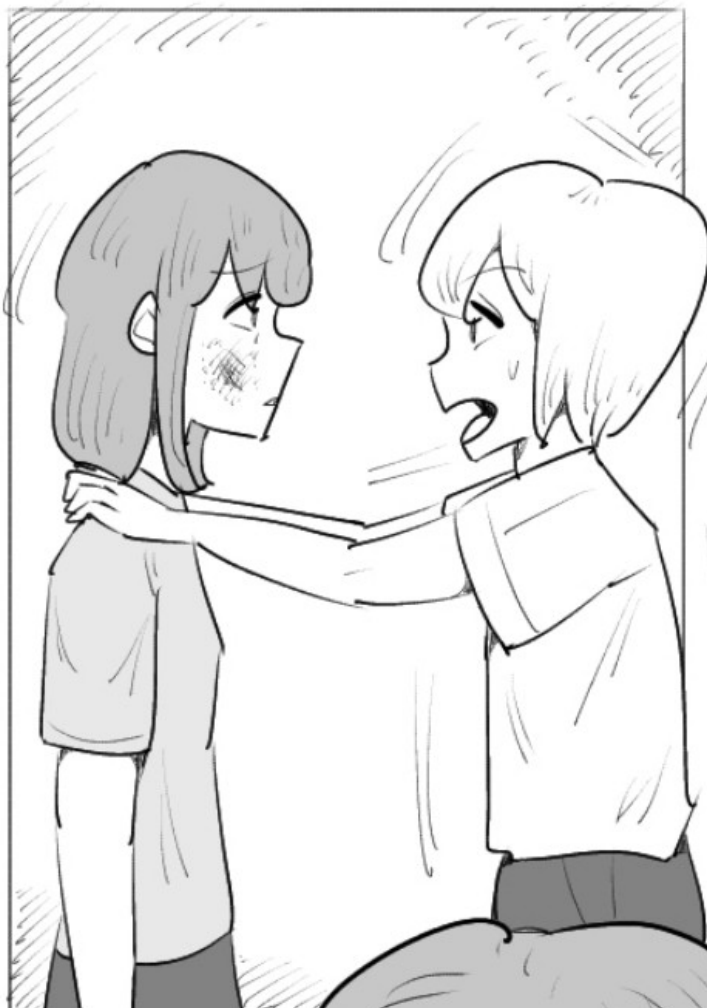


すいませーん。  
ごめんくださーい。



えっ

緑山さん、  
どうしたの……？



その顔！？

え……いや……

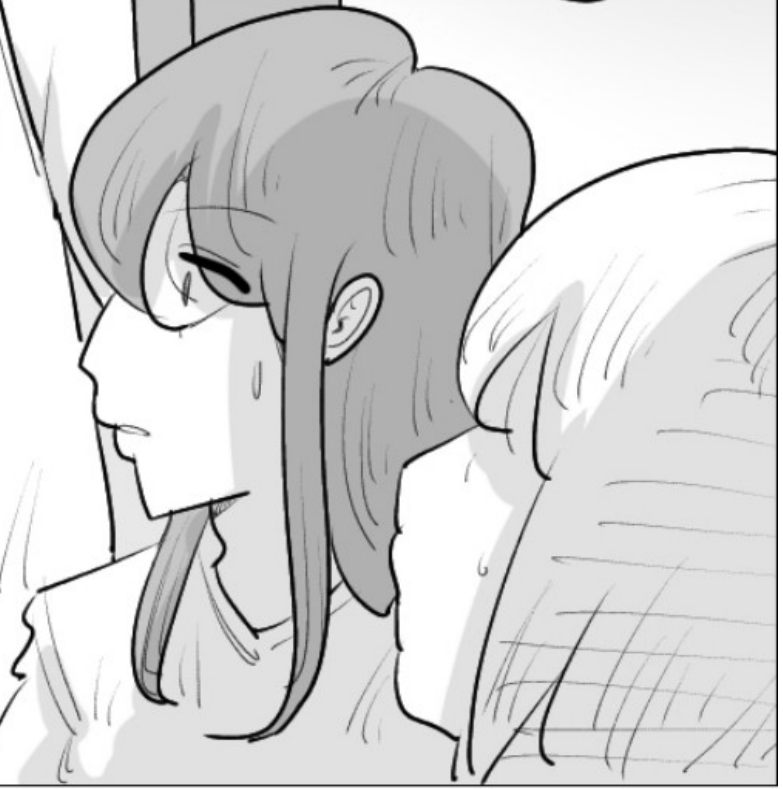
島田くん……なんで。



ミカン……  
どうしたー？



ミカンのお友達か……？



ああ、はい…。  
プリント届けに来ました。

そうか、  
ありがとうね。  
わざわざ。



お菓子でも  
食っていくかい？



い…いえ…。  
遠慮しておきます。

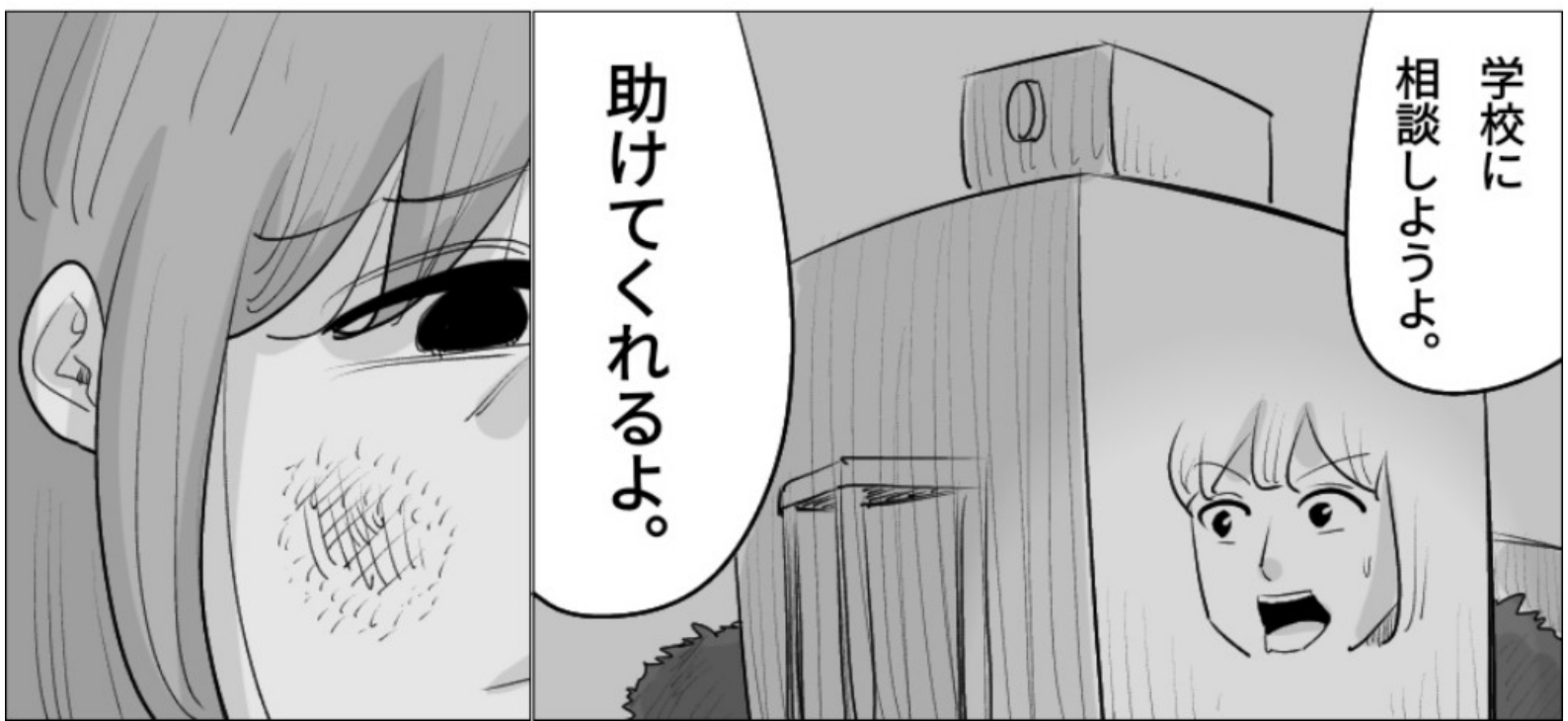




緑山さん、  
その怪我…お父さんに  
やられたんじゃないの？

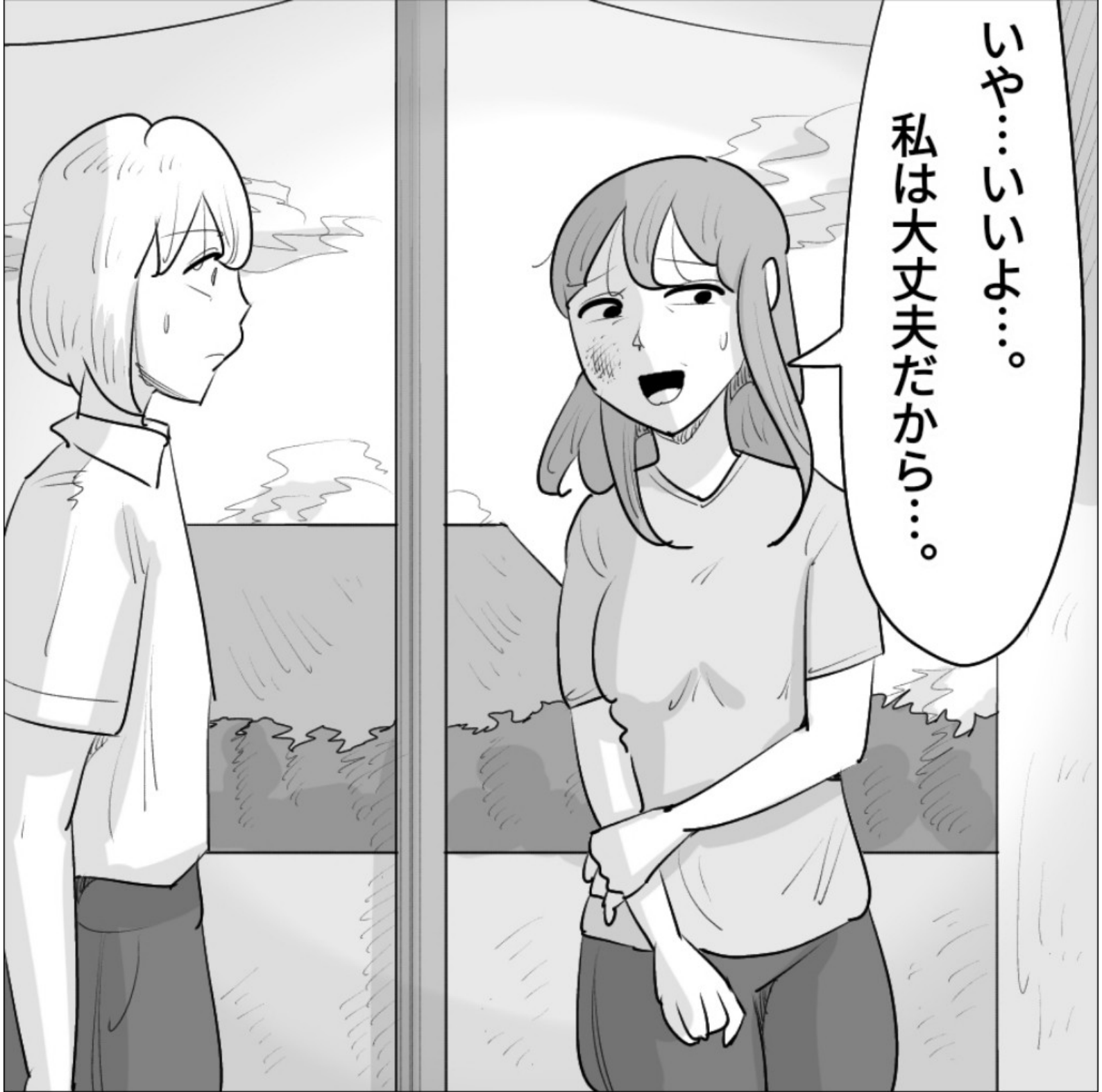


いや…これは…。



学校に  
相談しようよ。

助けてくれるよ。



いや…いいよ…。  
私は大丈夫だから…。



プリント、  
ありがとうね…。

それじゃあ。

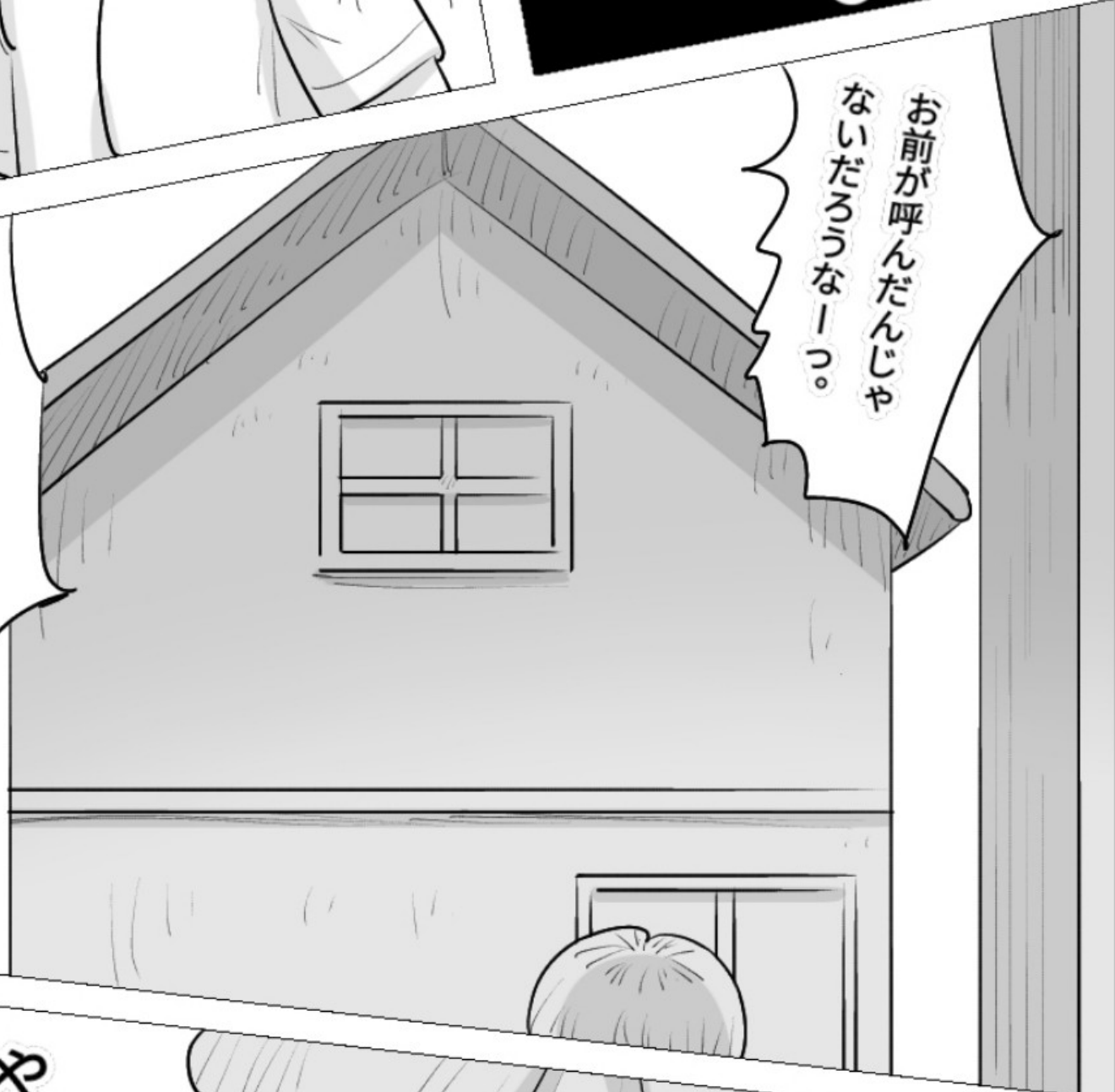


あーっ



お前が呼んだんじや  
ないだろうなーっ。

ちがうっ…  
学校の先生に頼まれて  
持ってきてくれただけなのっ。



やだよっ。

お父さんっ



オラああああああ

ああああああああ

ガッ



ミカンちゃんを

いじめるなあああ。



それから、

僕たちは仲良くなり

付き合い出した。

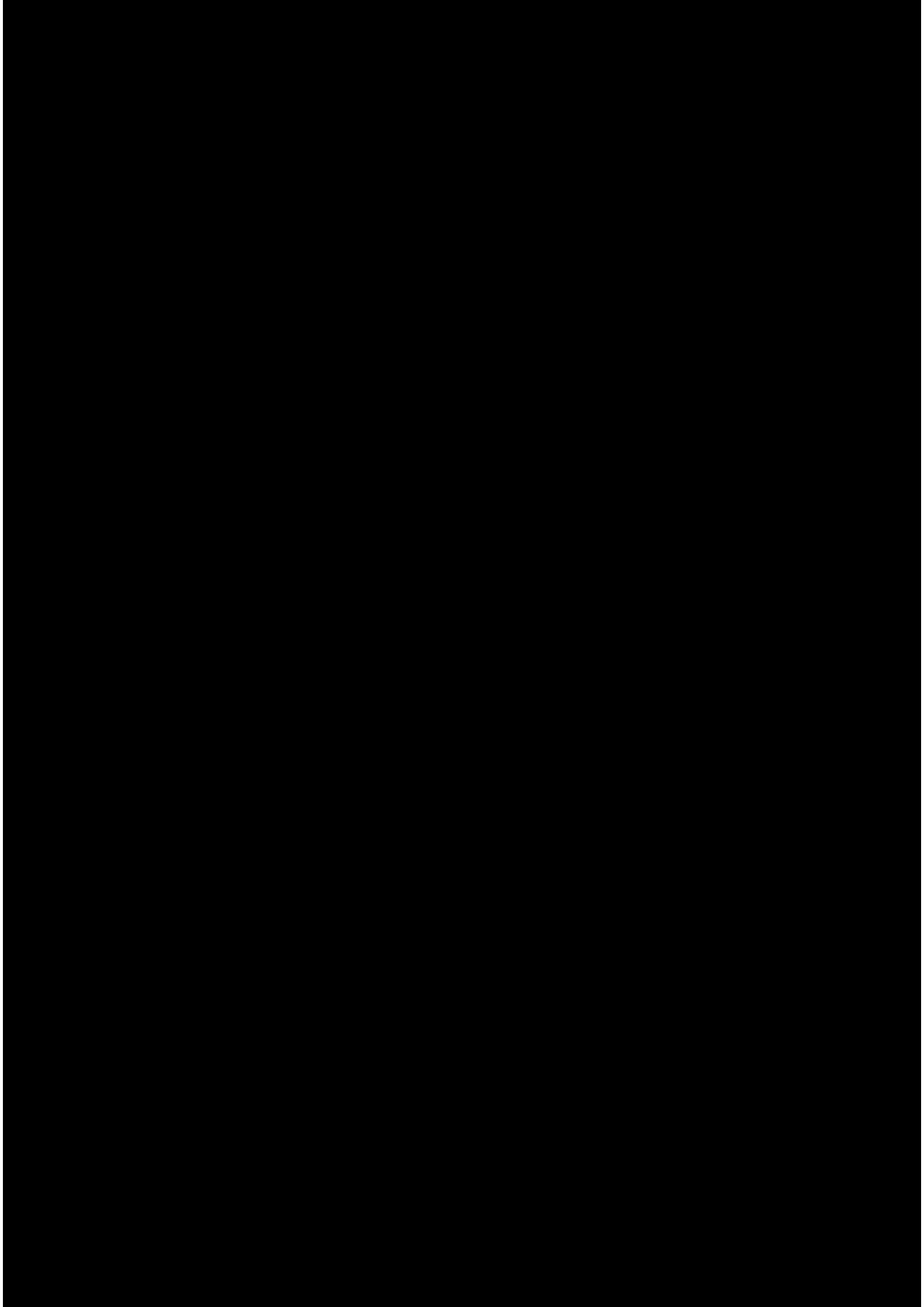


苦労してた分、

僕が彼女を幸せにして

あげたいと思った。








王子マコト

うわゝ、王子様よ。  
今日もカッコいい〜。

身長も高くて、  
肌もキレイだし、  
イケメン〜。

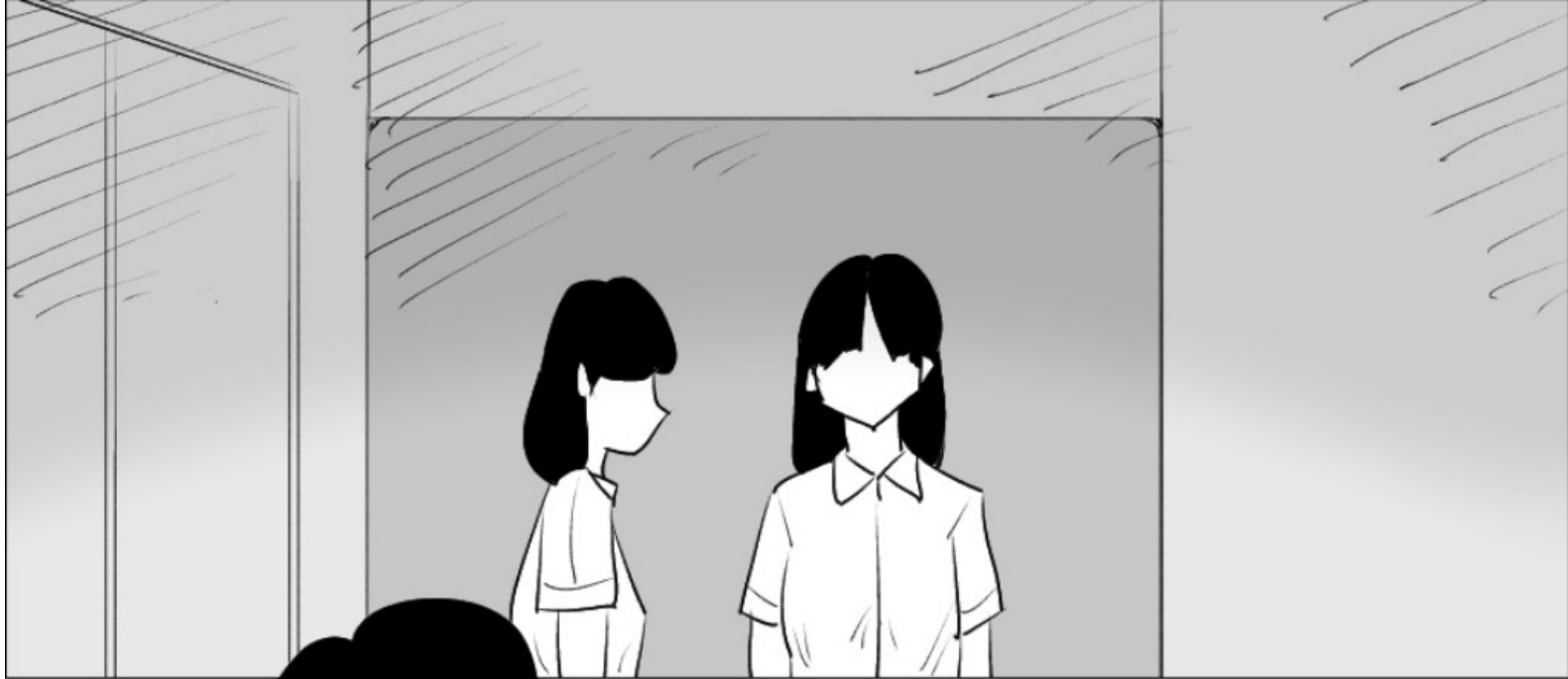
でも、噂で聞いたんだけど



学校で年下の  
可愛い男の子に声かけて

食い漁ってるらしいわよ〜。

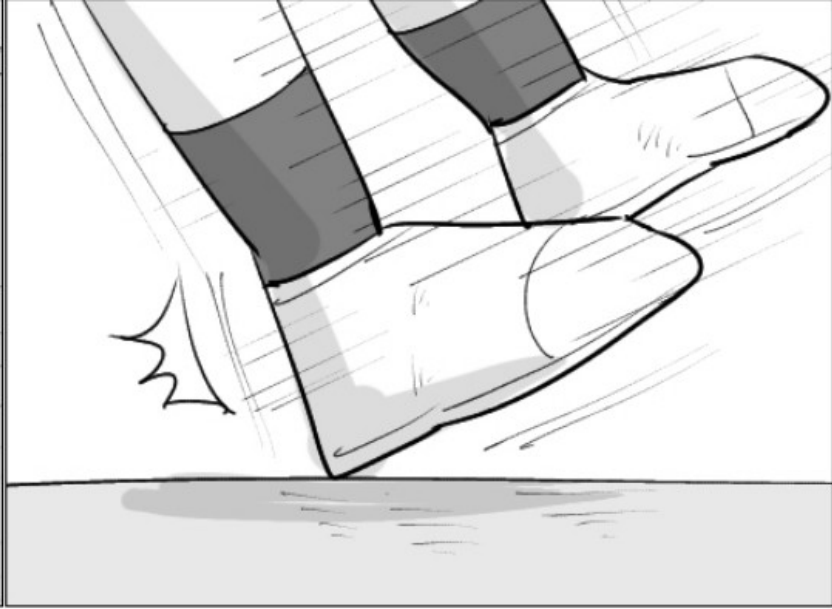
え〜。



でも、  
あの人だったら  
許せる。

私も抱かれたたい。

たしかに、たしかに。

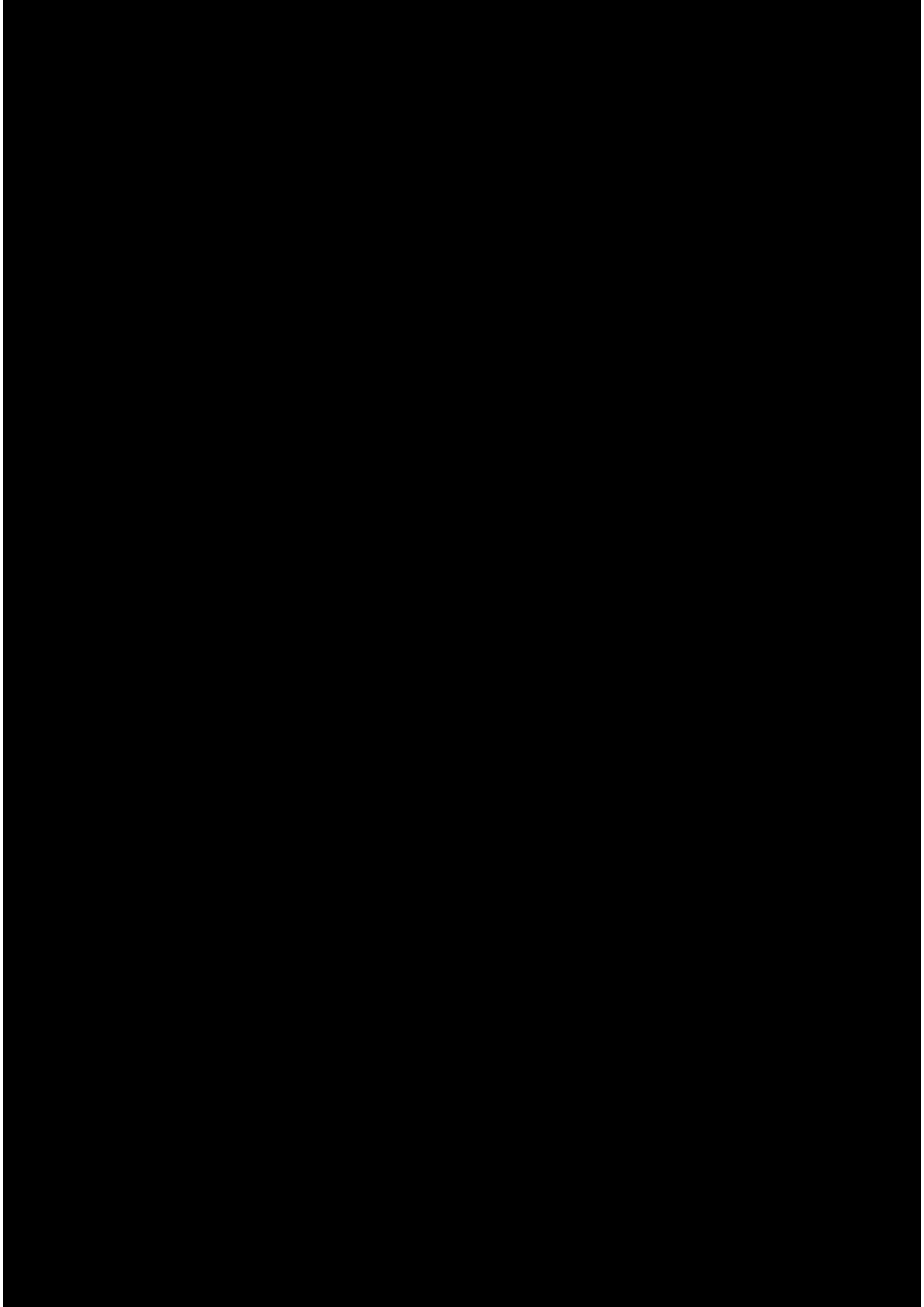




気を付けるんだよ。

は、はい。  
ありがとうございます。

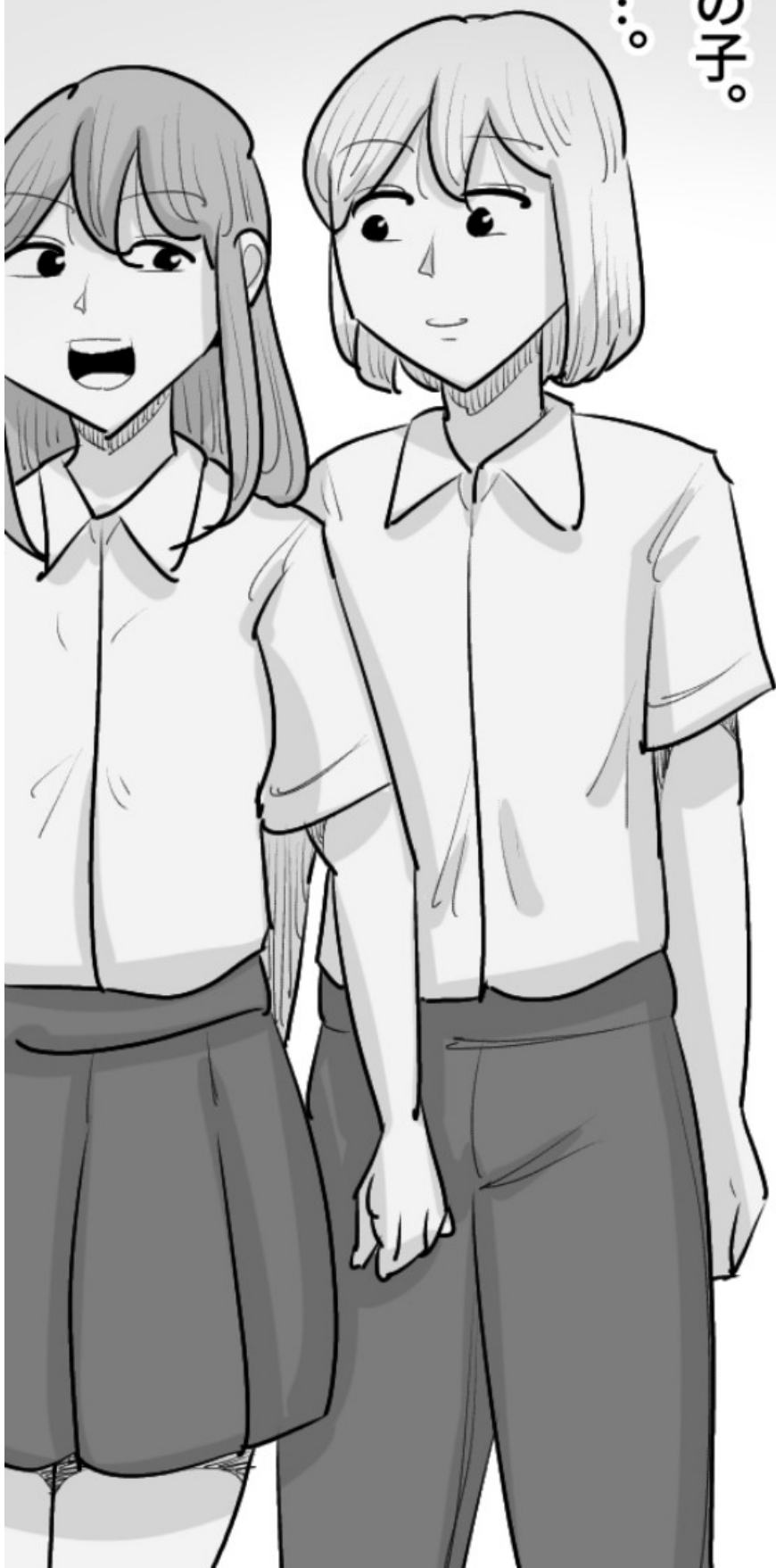
いつか、  
抱かれた〜い。

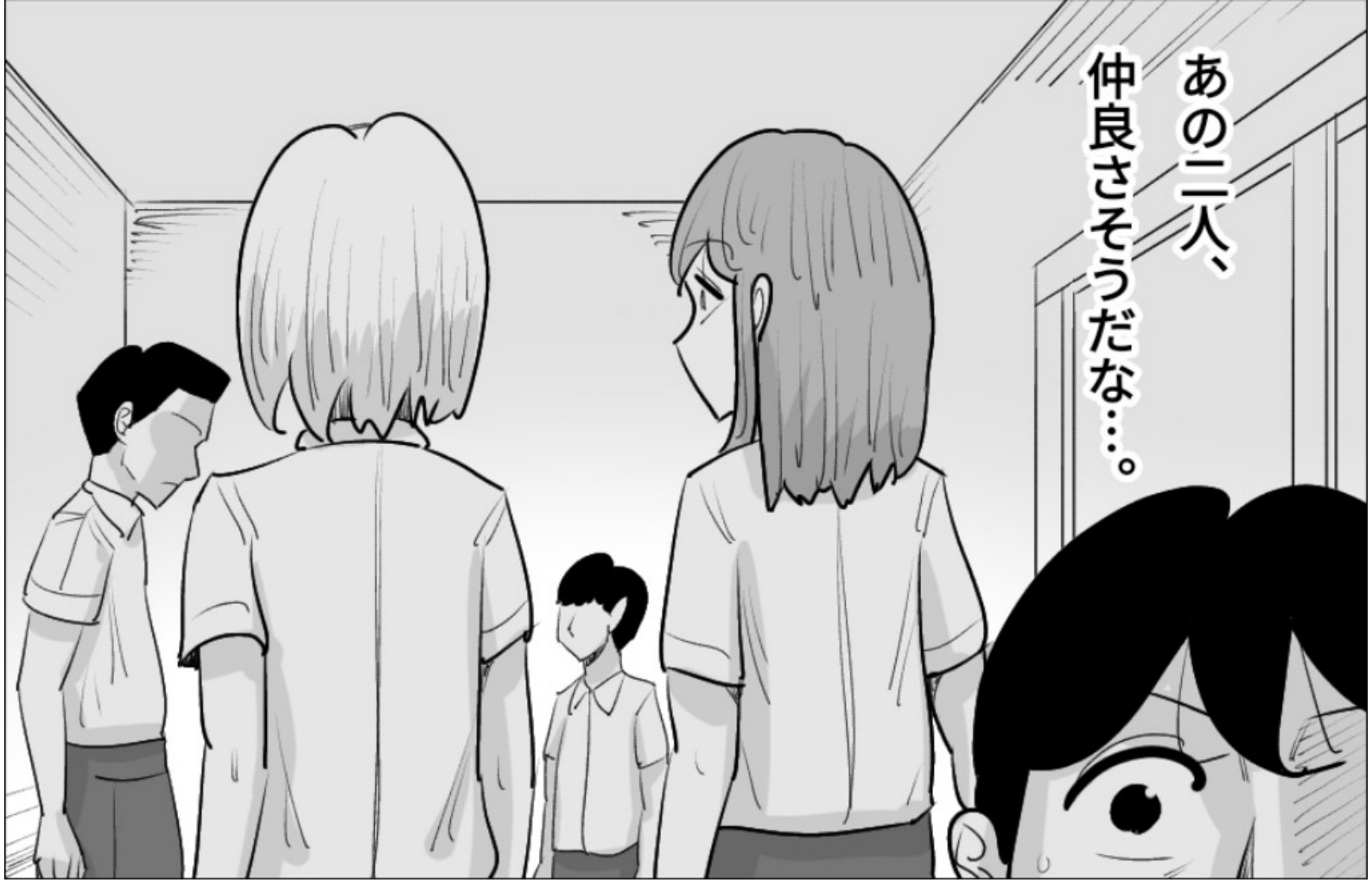


.....。

なんだあの男の子。

すごく可愛い.....。





あの二人、  
仲良さそうだな…。



でも



クソ……

彼女いるのか。

あの男の子と

イチャイチャしたい。

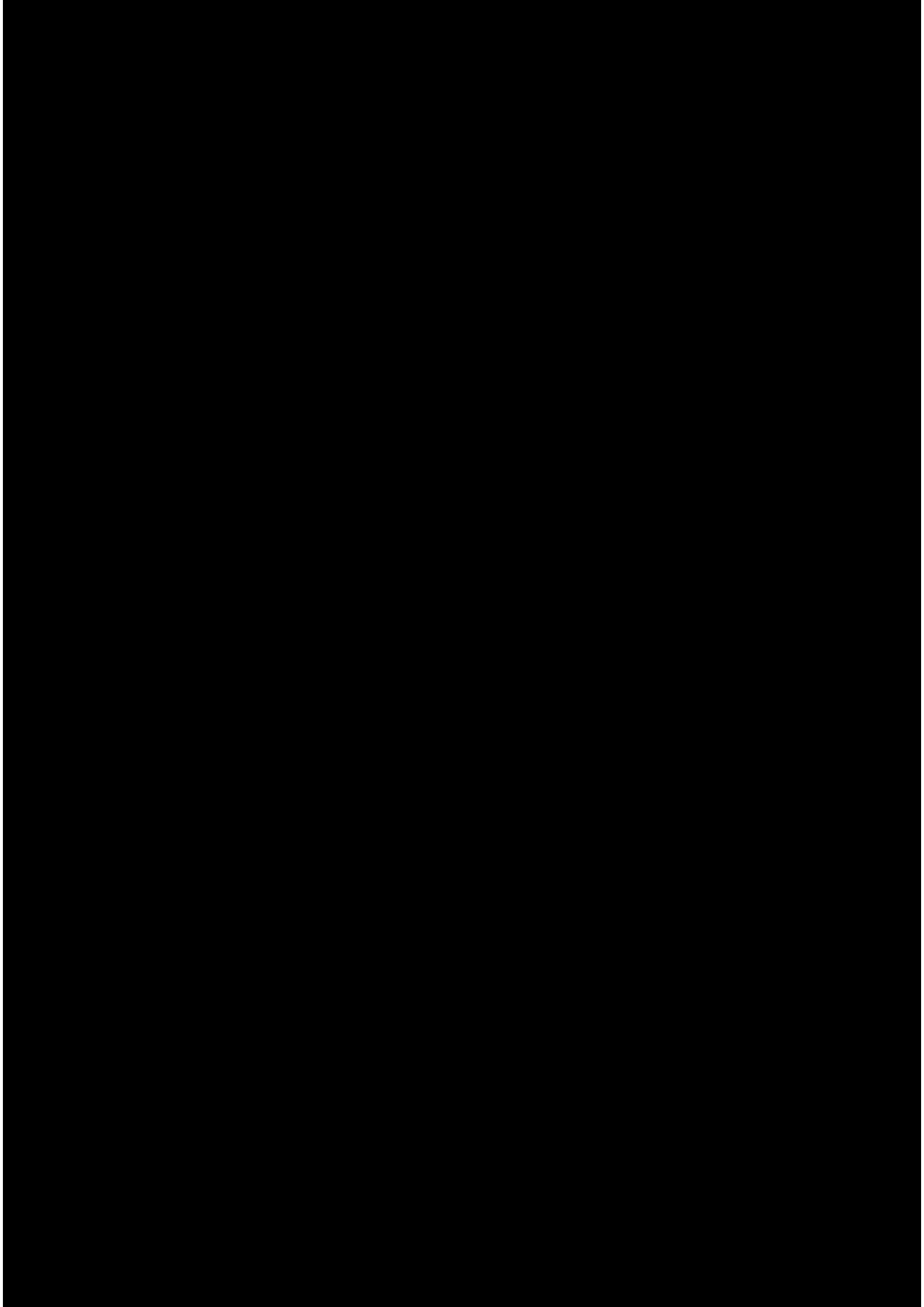
いじめたい。



絶対に

僕のものに

してやる。





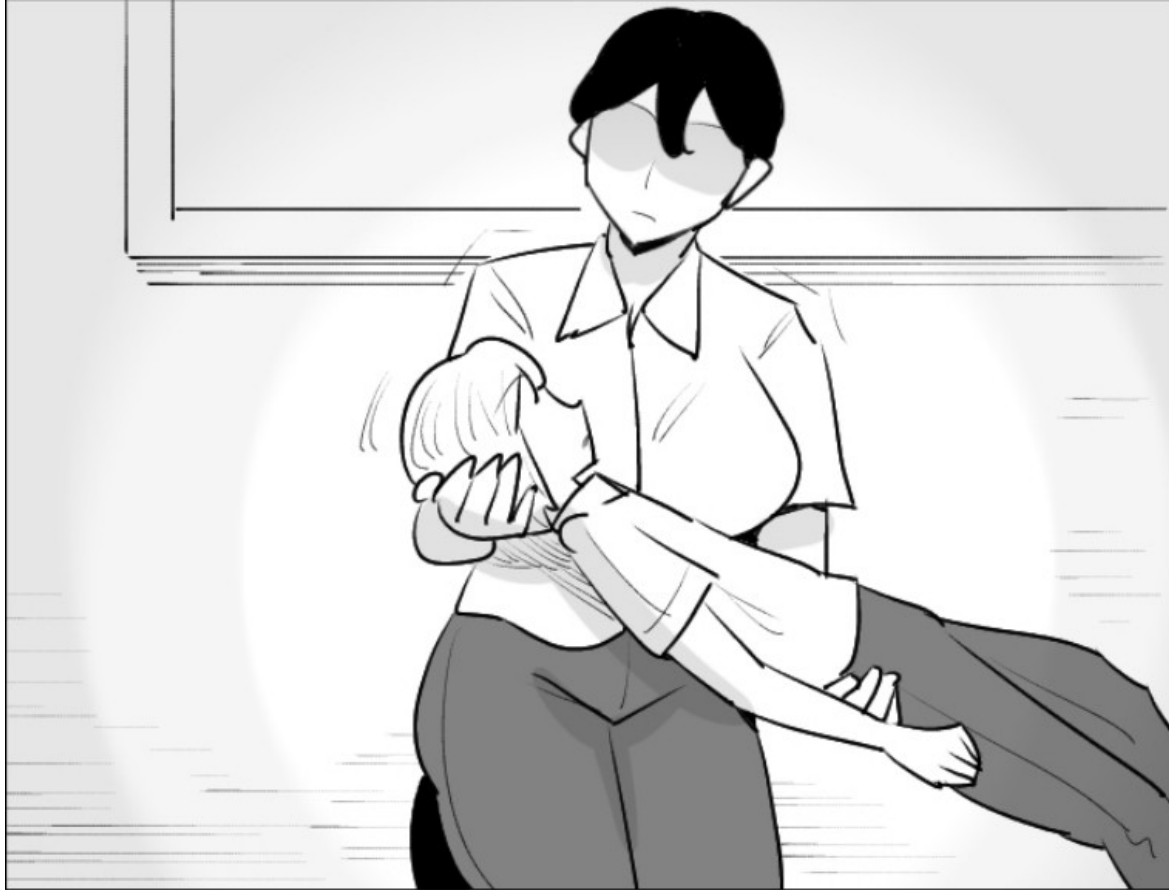




大丈夫だったかい？

すみませんっ。

あ、ありがとう  
っげいます。



大丈夫かい？  
顔が赤くなってるよ。

いや、これは…

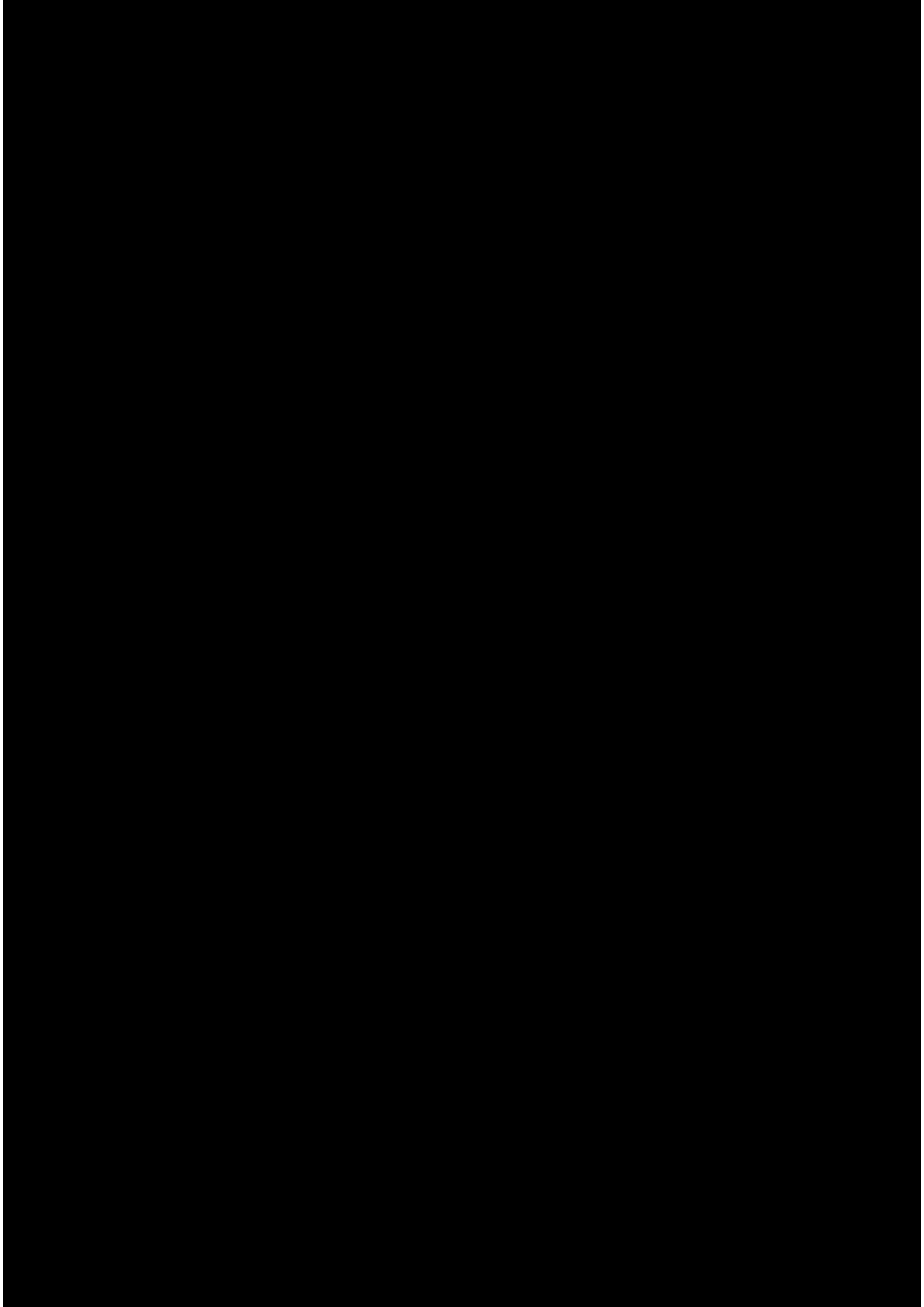


僕が保健室へ  
連れて行ってあげよう。

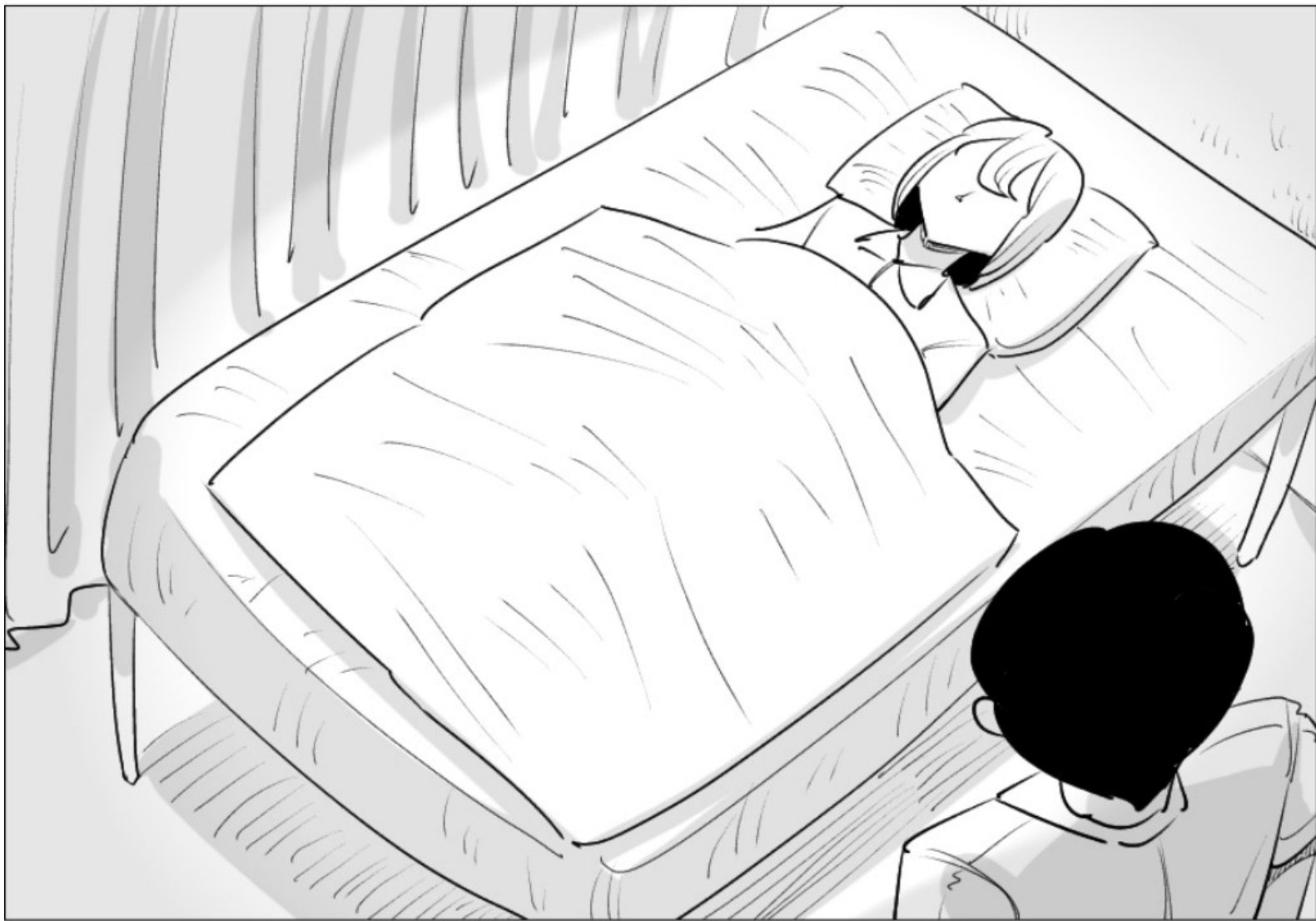
いや、大丈夫ですっ。  
自分で歩けますしっ。

うんぬん。  
遠慮しないでいいから。



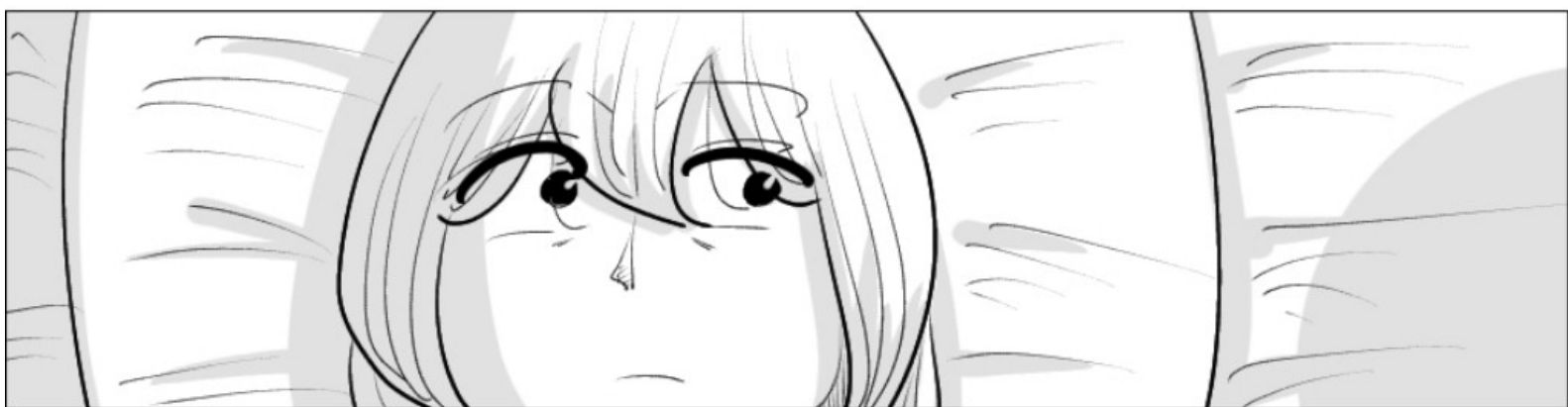


# 保健室



あの…別にもういいですよ？  
看てもらわなくても。

わざわざ  
ありがとうございます  
うございました。





えん？

そうですね、  
それが何か…

なあ、あの子とは別れて、  
僕と付き合ってくれよ。





なっ  
何するんですかっ。

僕、君のこと

好きだ。

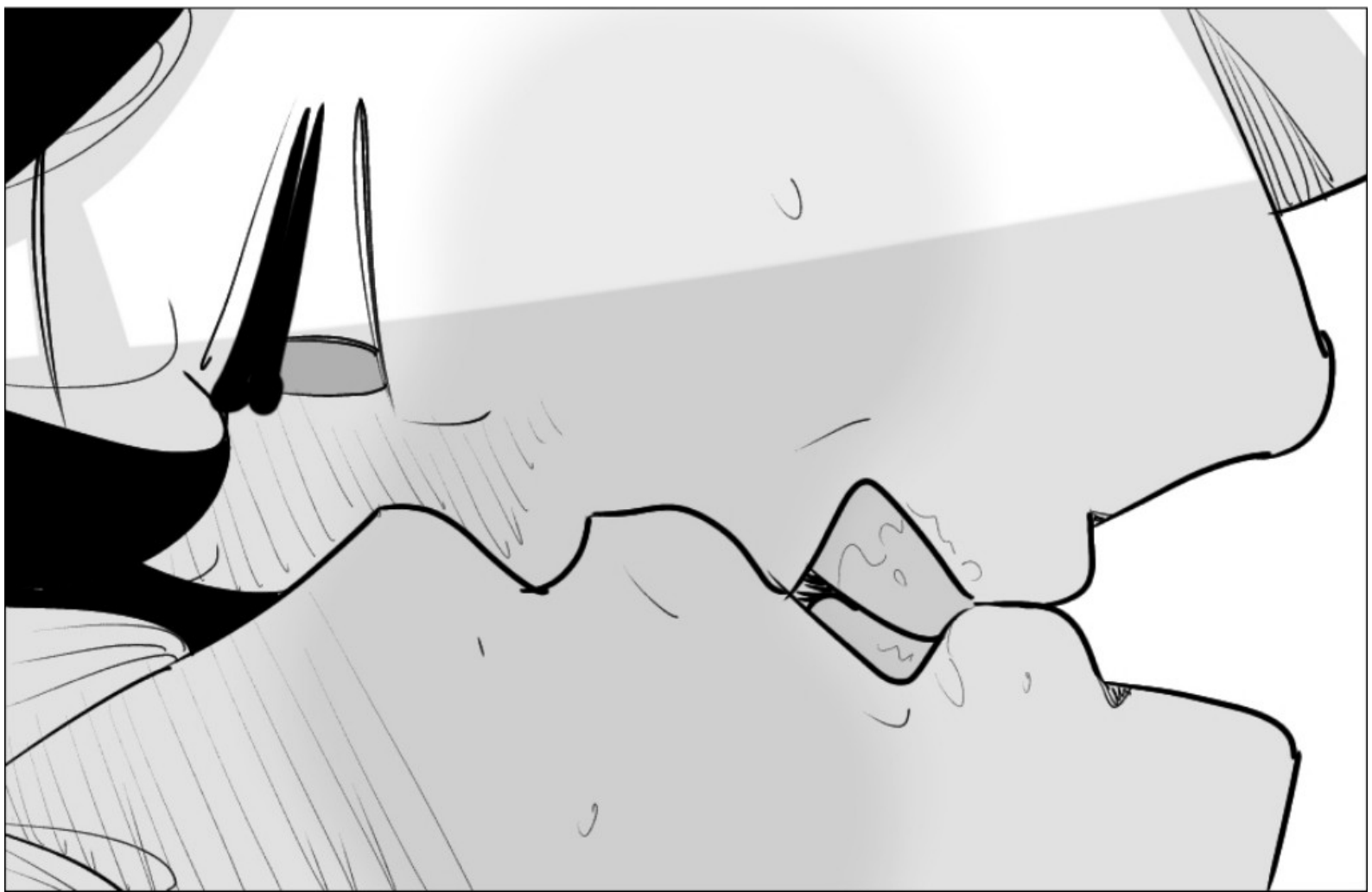
君のこと...

僕のものにしたい。

ちよっ

ちよっと待ってっ。







ちよっ  
勝手に  
脱がさないで  
くださいっ…。



嘘…。いや…違う…。  
興奮したんじゃないやなくて…。



ふふふ。  
なんでだい？  
こんなに大きく  
なってるじゃないか。



ちゅっ



怖がらなくていいよ？  
君は僕に任せていればいいから。



あっ…  
やめてくださいっ。



うわゝ。すげい。  
こんなにビンビンじゃないか。



彼女に申し訳ないとか  
思わなくていいんだからね？

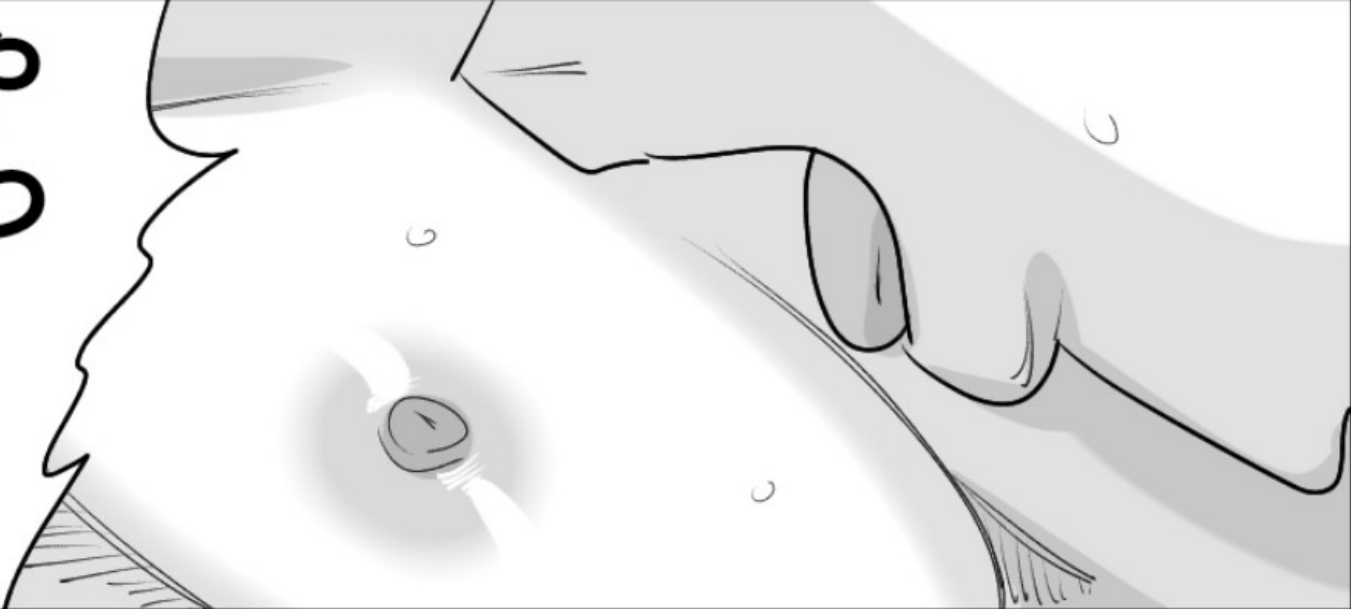
ちやっ

僕が君のこと、  
抱いてあげるよ。



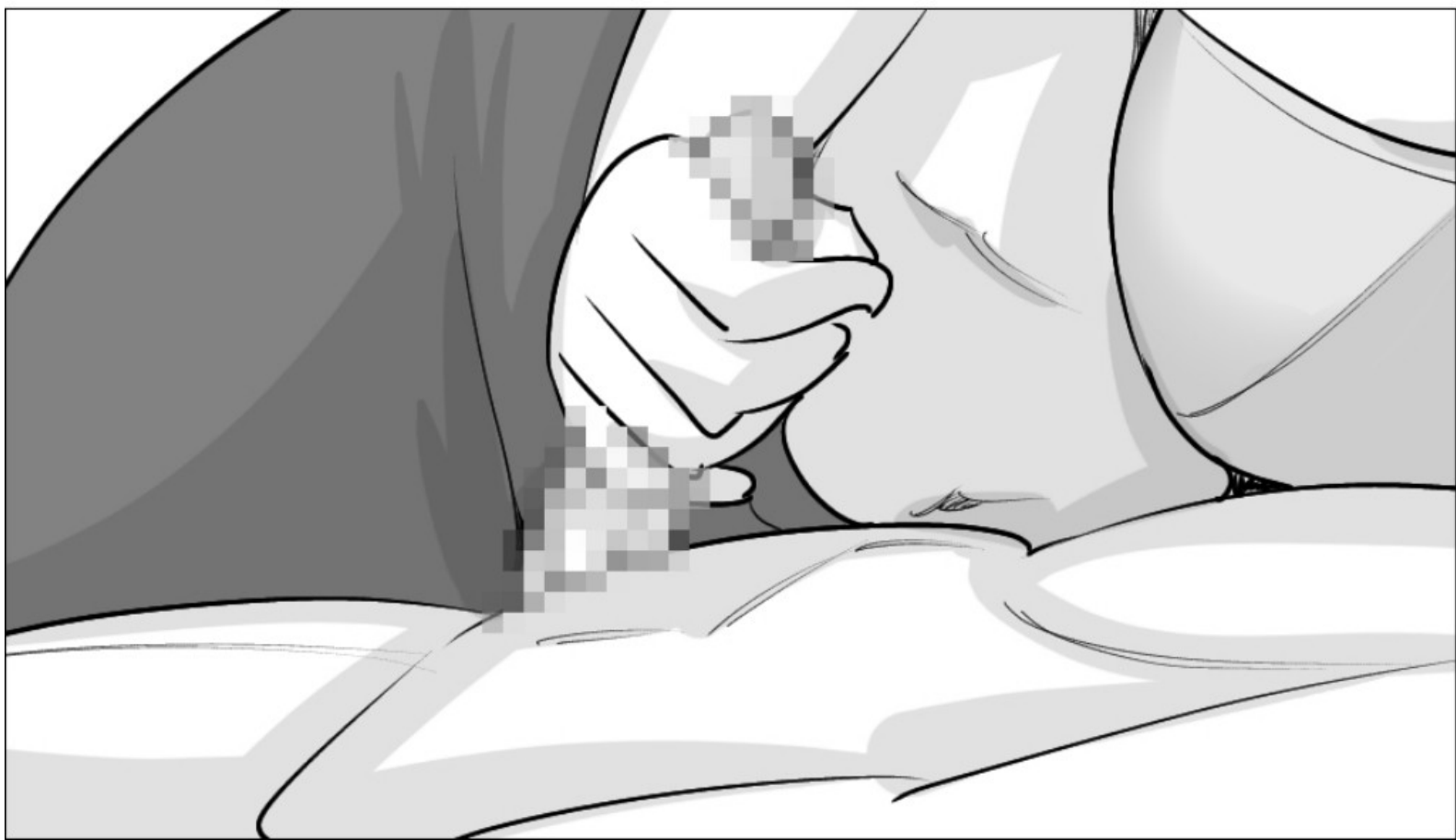
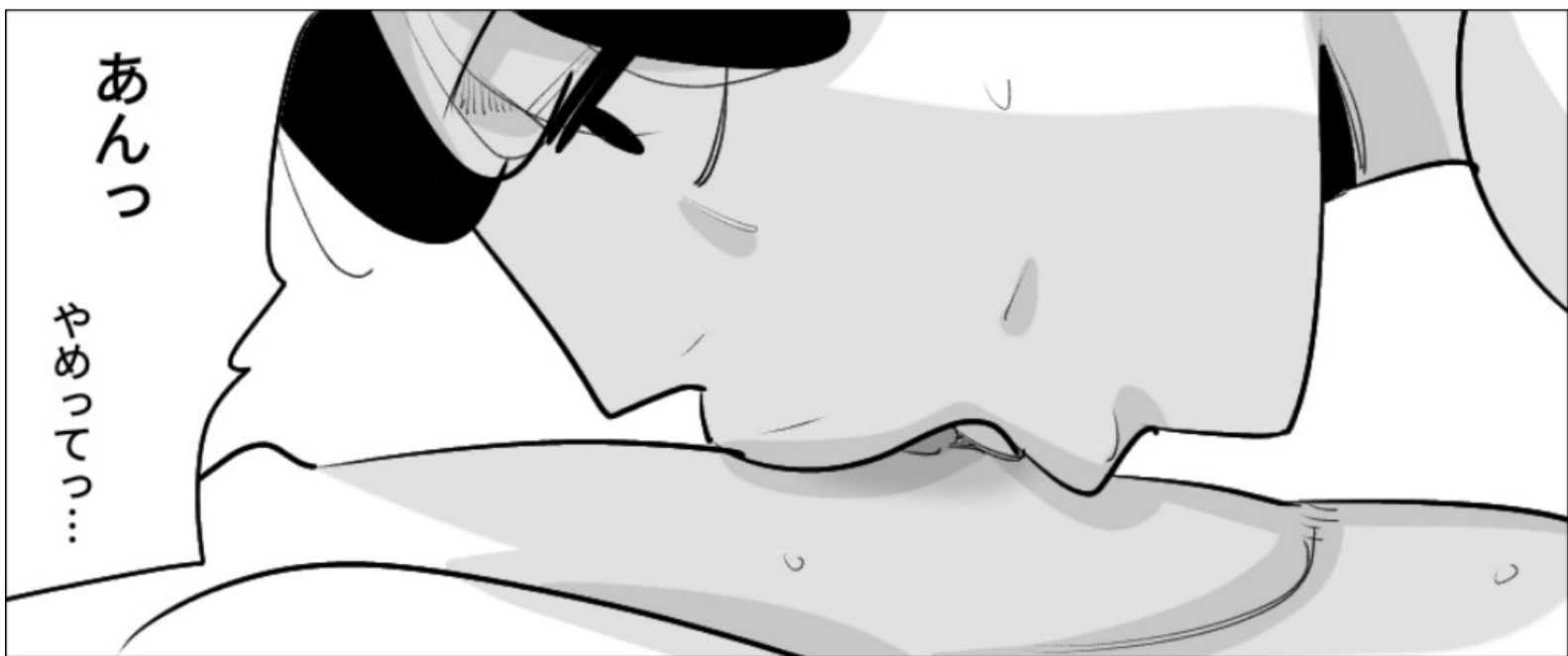
おっ

やめてくださらっ...

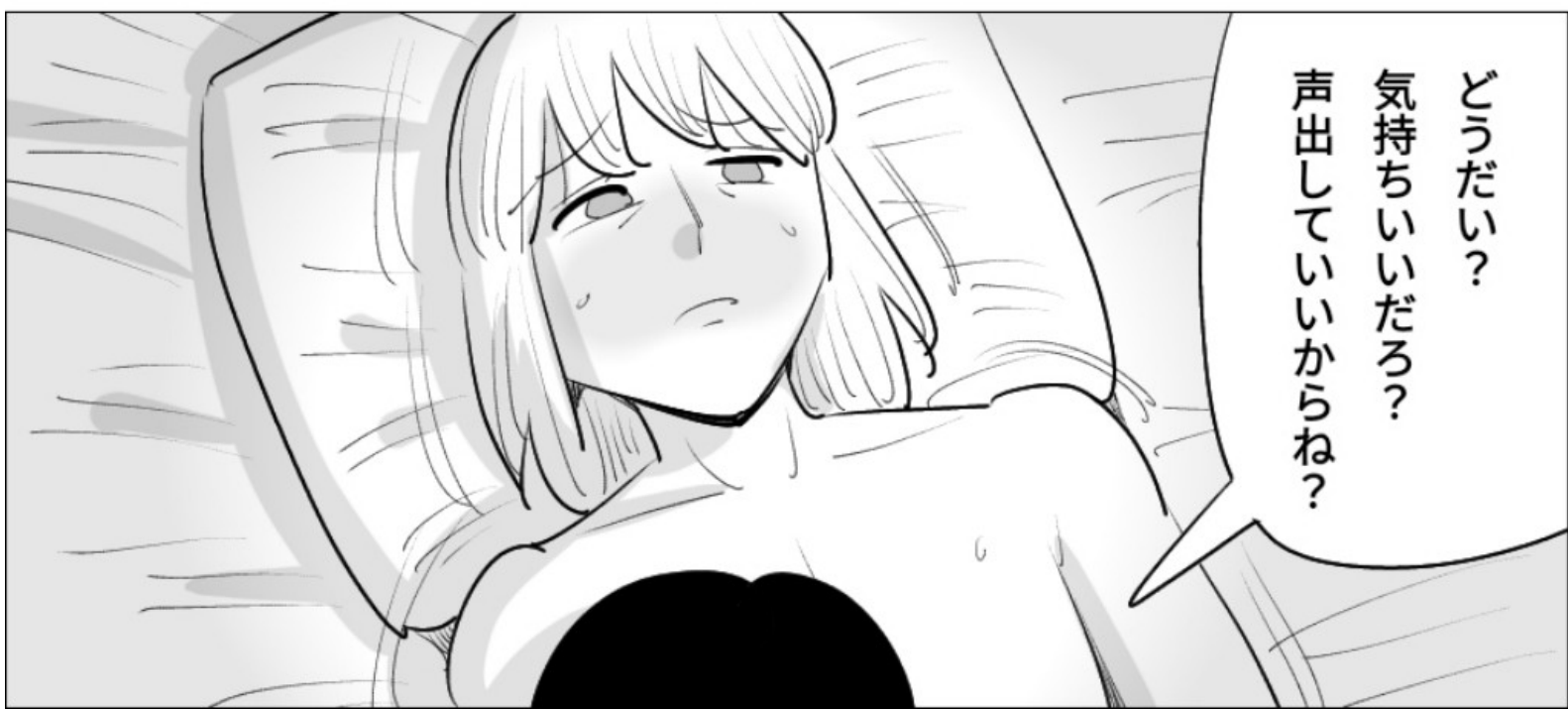
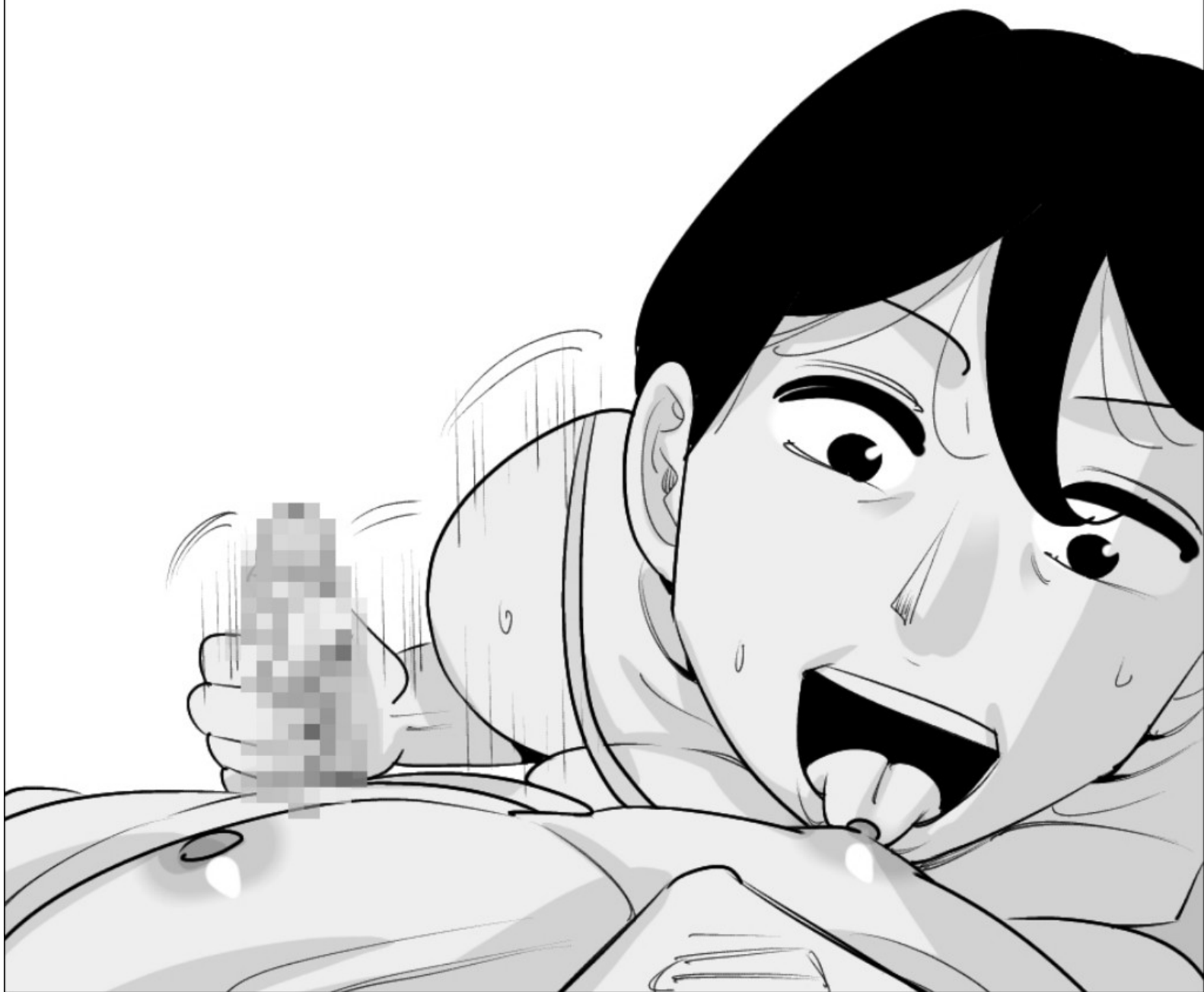


あんっ

やめてっ...









うふふ。

君のチンポ、  
僕のおっぱいで  
挟まれちゃった。

すごいだろ？

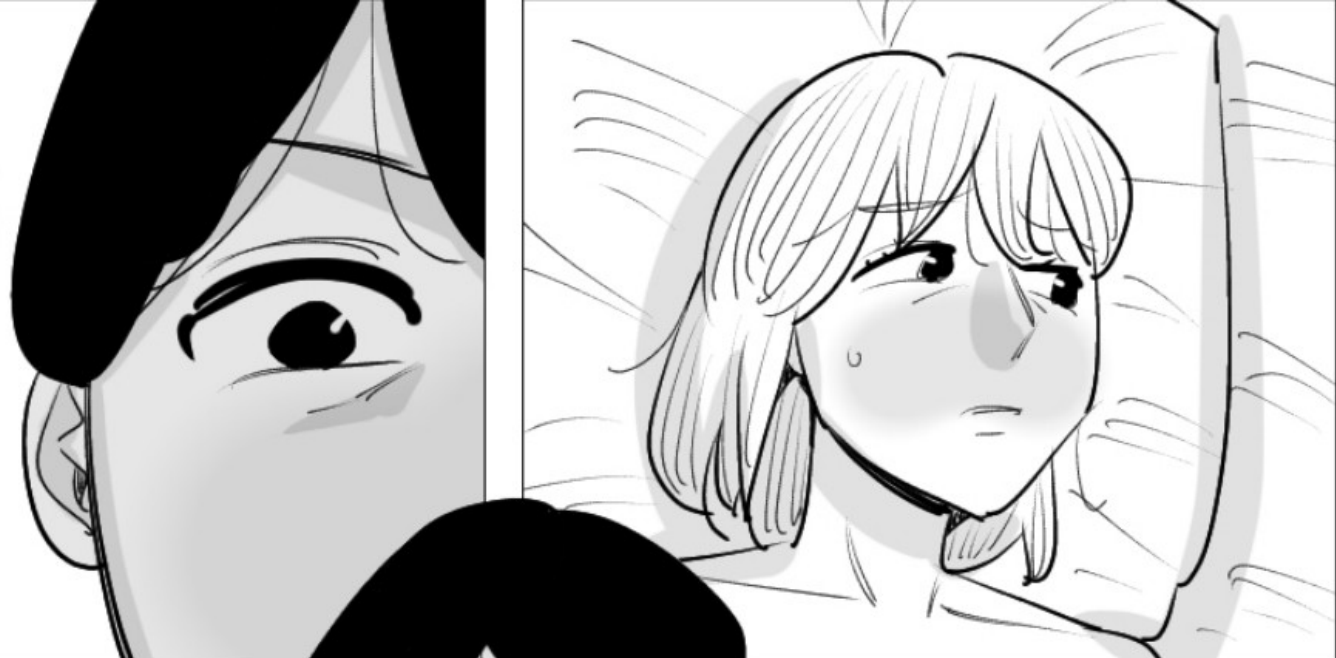
僕、めちやくちや

巨乳なんだぜ。

うふふふ。

反応がうぶで

可愛いなあ。



あっ…

あっ…やめっ

大丈夫かい？

もう出そうなんじゃないか？

出しているんだぞ？

君も年頃の男の子なんだから

我慢出来ないだろ？





もうやめて  
ください…。



気持ち良く  
なんかありません。



僕は彼女のことが…  
一番好きなんです。

「じいじい」は  
恋人同士でやることであって…。



でも、  
もっと君のこと、  
手に入れたく  
なっちゃったよ。



そうか、やっぱり  
彼女のこと好きなんだね。

可愛いなあ。



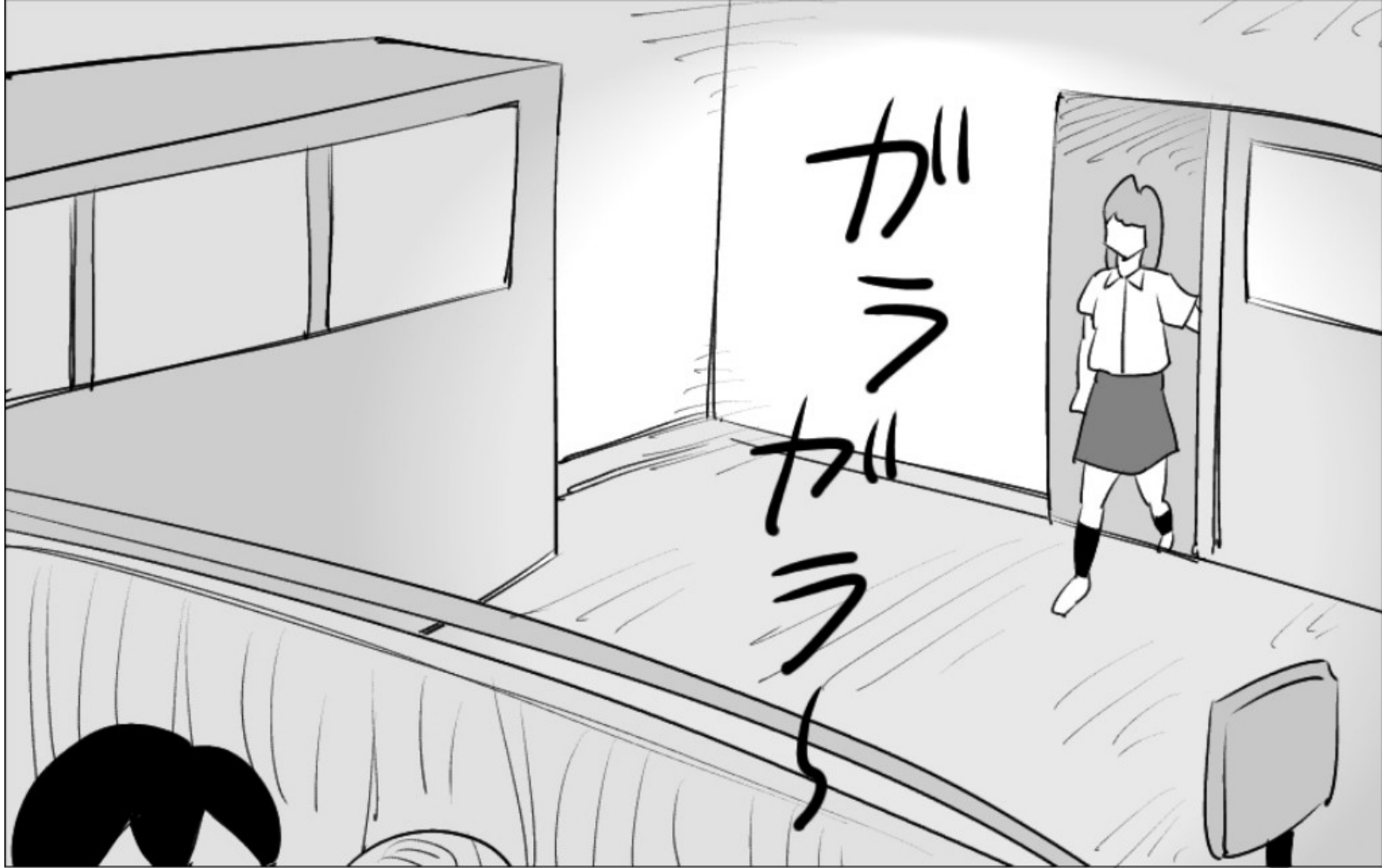


おっ…  
大きい…



触っていいんだよ？





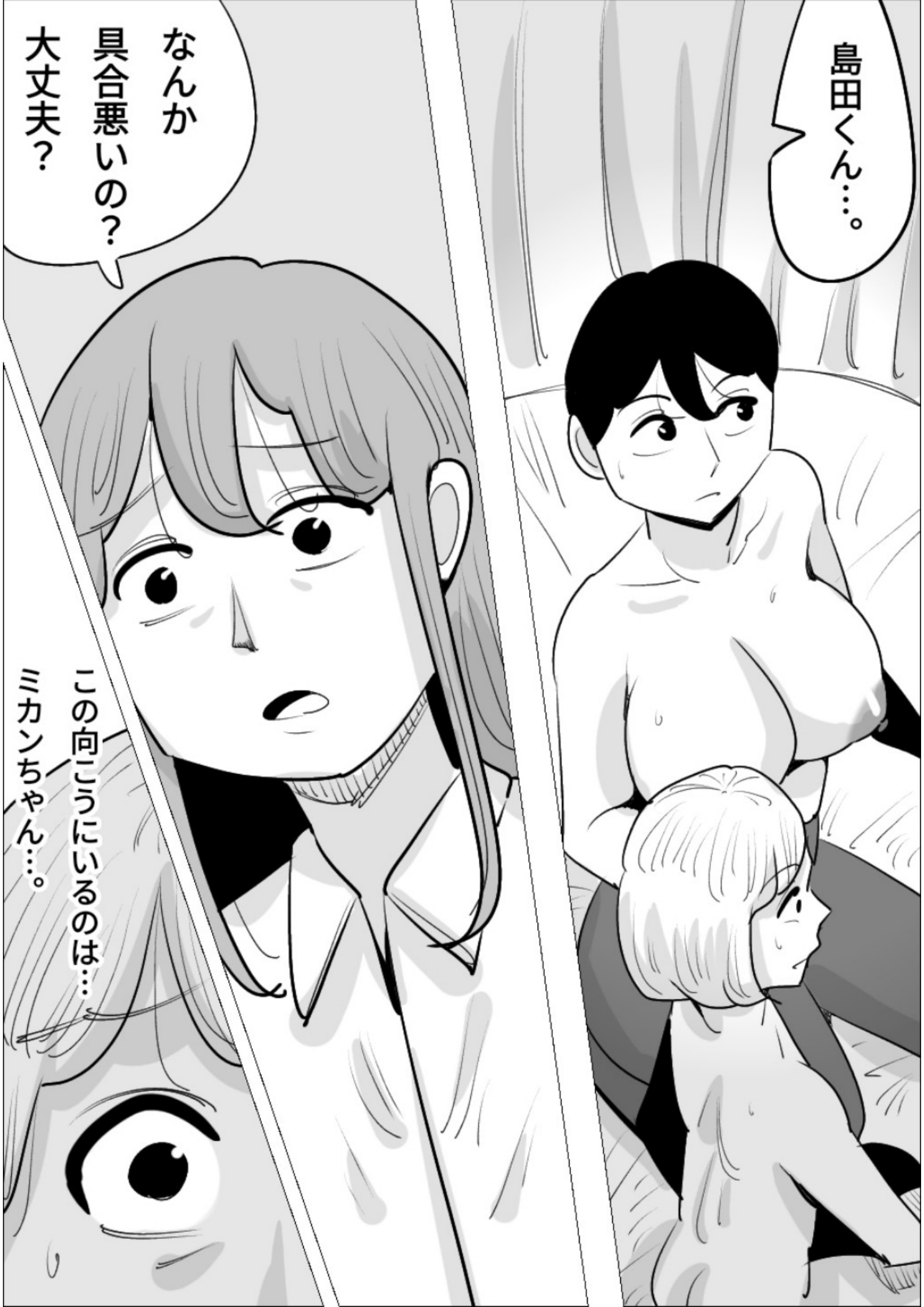
島田くん…。

なんか

具合悪いの？

大丈夫？

この向いっぺんは…  
ミカンちゃん…。





今、寝てる…。  
風邪っぽいから  
今、カーテン開けないでね。

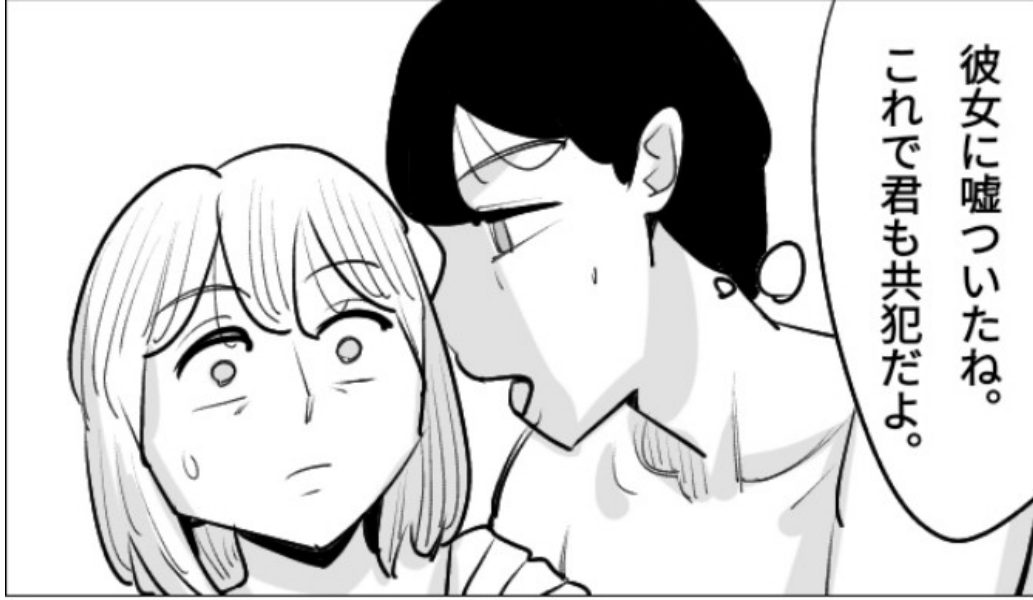
ミカンちゃんに  
うつるかもしれないし。



う…



うん、大丈夫…。



彼女に嘘ついたね。  
これで君も共犯だよ。



いや…違いますっ。  
誤解されないように  
しただけで…。



ちょっと…

何してるんですか？



もう我慢出来ないでしょ？  
最後までしてあげる。



そうか…。

それじゃあ、

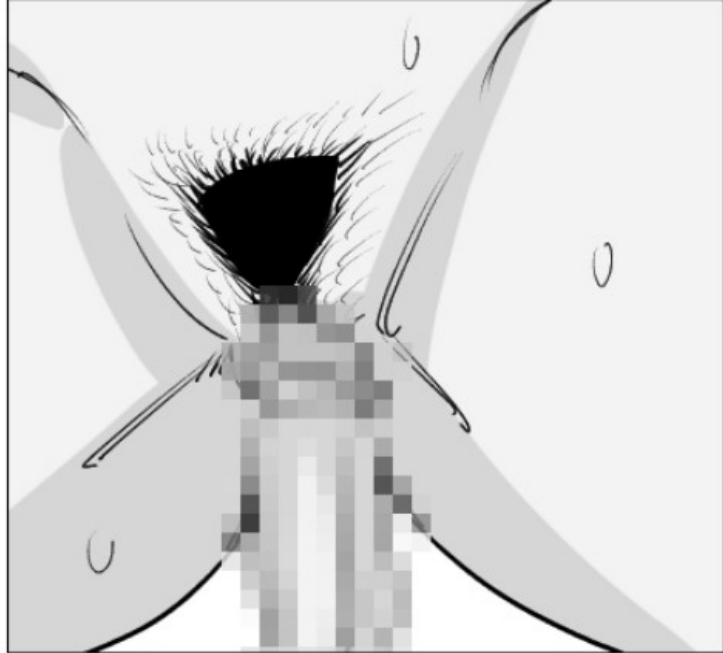
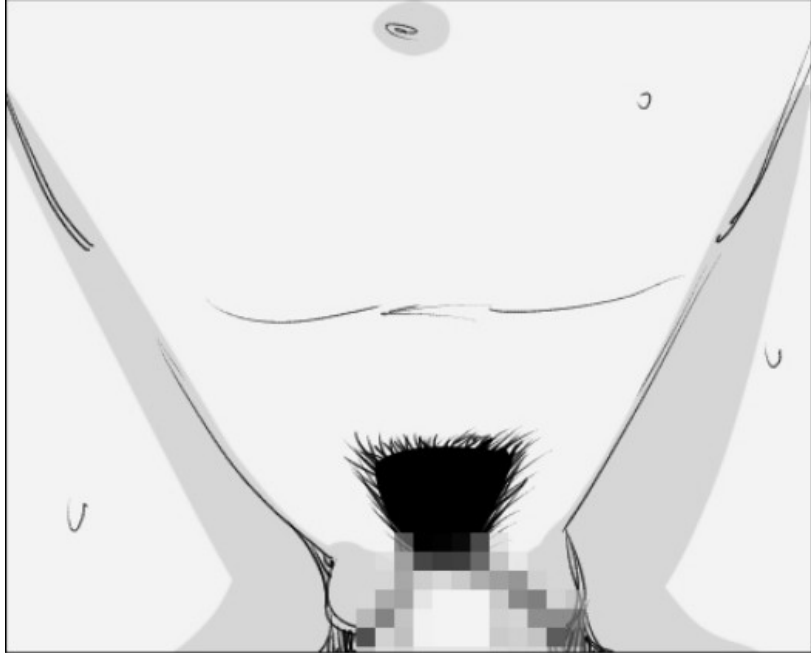
私、もう行くね…。



それじゃあ、  
お大事に。











なんかあったの？  
島田くん...。



ん...?  
何の音...?

くちゅ

くちゅ

キキキ  
キキキ

なんか

ねちやねちや


してる感じの音。

キキキキ

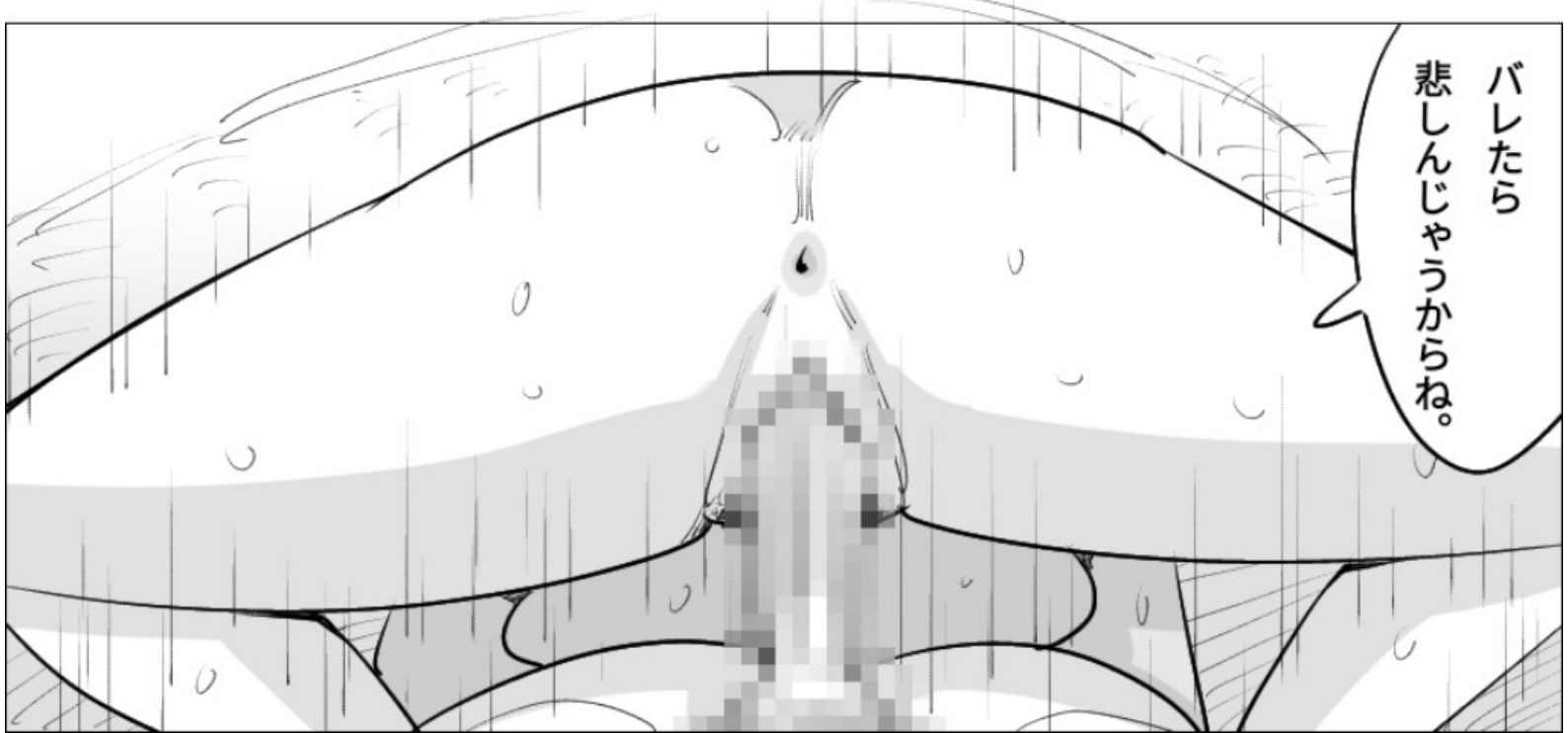
言ってるのは

ブツブツの音？





あんまり声出さないで？  
彼女にバレちゃうよ？



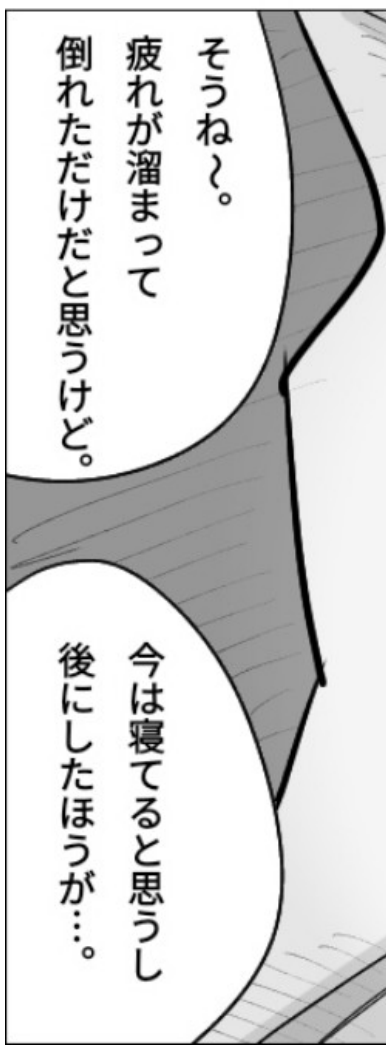
バレたら  
悲しんじゃうからね。



開けるなって  
言われたけど…。

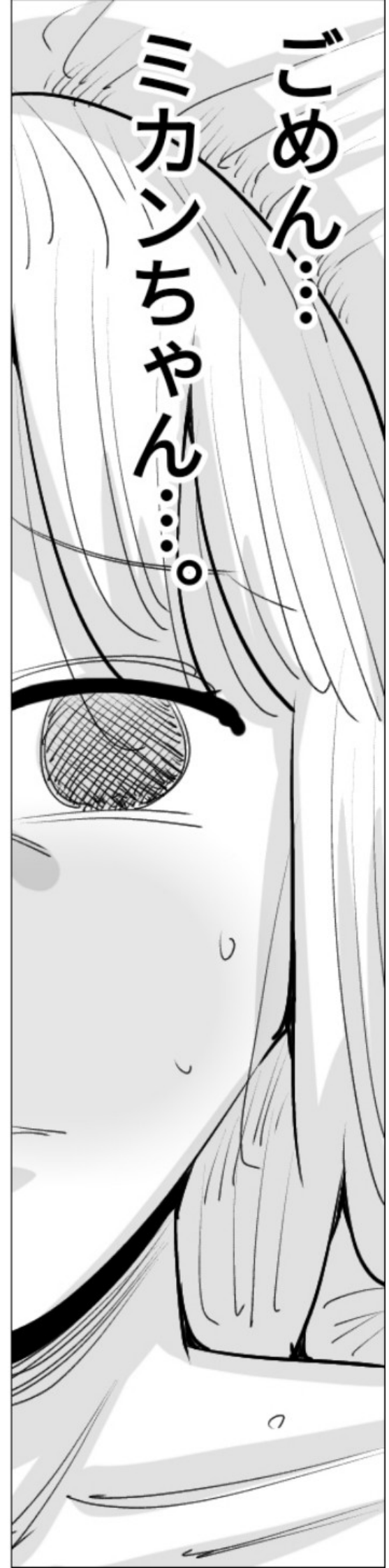
何があるのか…  
確認しないと…







そうですね…。  
わかりました…。



ごめん……

ミカンちゃん……。